

2022年度

事業概要

南部地域療育センターそよ風

南部地域療育センターそよ風

通園部「子ども像」

いのちを守り、いのちをつよくなる子ども
ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
ときどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
人とともに育ちあえる子ども

相談診療部「理念」

「児童憲章前文」

児童は、人として尊ばれる
児童は、社会の一員として重んぜられる
児童は、よい環境の中で育てられる

私たちは、この「児童憲章前文」の精神を大切に、次のことを目指します。

生命と人権の尊重

- ・子どもたちの一人一人の生命をかけがえのないものとして大切にします
- ・子どもの人権を守り、最善の利益を追求します

家族や地域とともに

- ・子どもや保護者から学び、ともに育ちあう関係を大切にします
- ・地域の機関、組織と連携し、子どもや家族が地域で豊かに生活できることを目指します
- ・社会に目を向け、協働して現状の変革に努めます

療育の追求

- ・子どもが主体的に生きることを大切にします
- ・あそびや生活を豊かにし、人と関わる力を育てます
- ・豊かな人間性と、科学的な視点を持ち、療育の専門性を追求します

はじめに

新型コロナウイルス感染症は2021年には収束するのではという期待に反して、2022年1月にはオミクロン株の流行で昨年までの流行よりはるかに多い感染者数となりました。

ウイルスの重症化しにくい特性とワクチン接種の普及により、重症者数は少なくなっていますが、新規感染者は10歳未満が最も多くなり、そよ風の運営にも大きな影響がありました。

そよ風の事業概要とは関係のない話で恐縮ですが、2022年2月24日にロシアがウクライナに「軍事侵攻」し、連日のニュースにうんざりする事態になっています。4月7日のNHKのニュース解説で、「ウクライナ報道と“共感疲労”」という放送がありました。

ロシアは軍事大国であるだけでなく、資源大国でもあります。ヨーロッパは天然ガスなど多くのエネルギーをロシアに依存していますが、ロシアに対する経済制裁で、ロシアの天然ガスを当てにできなくなりました。原子力発電を廃止するといっていたドイツは、原子力発電廃止をストップせざるを得ず、フランス、イギリスは原子力発電所を新設すると言い出しました。

プーチンは「欧州でロシア産ガスに代わるものない」とロシアに対する経済制裁は困難であると見切っています。

ヨーロッパだけではなく、日本もロシア石炭禁輸と言いましたが、段階的にと注釈が付き、G7環境相会合声明原案の「石炭火力発電を2030年までに廃止」に反対しています。

サハリン沖でロシアと共同開発する石油・天然ガス事業も中止しないとっています。

2021年ショパンコンクールで2位になった反田恭平さんが、コンクールの3次予選で3つのマズルカ Op.56、ソナタ第2番 変ロ短調 Op.35 「葬送」、聖歌「神よ、ポーランドをお守りください」変ホ長調、ポロネーズ第6番 変イ短調 Op.53 「英雄」を演奏して、決勝に進みました。ウクライナ報道を見るたびに「神よ、ウクライナをお守りください」と置き換えて聞いてください。

この演奏はYouTubeで KYOHEI SORITA -Largo in E flat major , Op. posth. (18th Chopin Competition, third stage) で検索するとショパン協会の公式画像で視聴できます。

新型コロナウイルス感染症、ウクライナ報道への“共感疲労”から抜け出すためには、そよ風に通う子どもたちの笑顔に助けをもらい、仕事をしたいと思います。

2022年5月

愛育診療所

所長 外園芳美

目 次

第 1 施設の概要	1
1. 施設の目的	1
2. 設置運営	1
3. 施設構成	1
4. 法人の経緯	1
5. 建物の概要	3
6. 事業の概要	3
(1) 事業の種類	3
(2) 担当地域	3
(3) 組織・職員体制	4
(4) 相談の流れ	5
第 2 発達相談事業	6
1. 新規相談	6
2. 発達検査および発達相談	11
(1) 新規相談児童の発達検査	11
(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談	11
(3) 検査結果	12
3. 初診前サポート事業	13
4. 療育グループ	16
(1) 就園前グループ	16
(2) 就園前グループアフターをつどい	22
(3) 並行グループ	22
第 3 医療事業	27
1. 診 療	27
(1) 小 児 科	27
(2) 整 形 外 科	32
(3) 耳 鼻 咽 喉 科	34
(4) 精 神 科	36
(5) 検 査	37
(6) 診断書等発行	37
2. 訓 練	38
(1) 理 学 療 法	38
(2) 作 業 療 法 (OT)	41
(3) 言 語 聴 覚 療 法 (ST)	44
(4) 生 活 支 援	47
(5) 保 護 者 向 け 学 習 会	49
(6) 音 楽 療 法 (MT)	50

第4 通園事業	51
1. 施設概要	51
(1) 定員	51
(2) 対象児童	51
(3) クラス編成	51
(4) 通園形態	51
(5) 親子通園の種類	51
(6) 通園バス	51
2. 療育内容	51
(1) 子ども像	51
(2) 療育の視点	51
(3) 療育計画	53
3. 家族支援	58
4. 見守り一時支援	59
5. 2021年度のまとめ	60
6. 児童の状況	61
第5 地域ケア事業	63
1. 地域連絡調整	63
2. 巡回療育指導	65
3. 訪問療育指導	66
4. 通園部アフターケア	67
5. アフターケア	68
6. そよ風広場	68
7. 兄弟プログラム	69
8. 施設・プール開放	69
9. 地域啓発・ボランティア育成	69
第6 児童デイサービス	70
1. デイサービス ACT	70
2. デイサービスみどりそよ風	72
第7 障害児相談支援事業所	74
資料 センター利用者数の10年間の推移（2012年度～2021年度）	76
平面図	79

第1 施設の概要

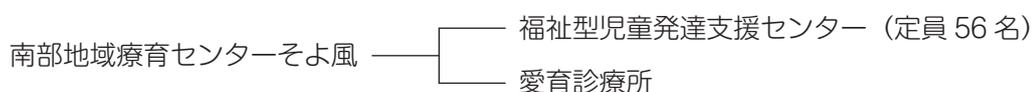
1 施設の目的

南部地域療育センターそよ風は、障害のある子ども、発達遅れや育ちに不安のある子ども等地域のすべての子どもの成長、発達を支援する。同時に、地域のなかで障害児とその家族があたりまえに暮らすための地域生活支援を行うことを目的に、通園事業、医療（訓練）事業、発達相談事業、地域ケア事業、生活支援事業、専門事業をすすめる。

2 設置運営

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

3 施設構成



- ・ 保険医療機関指定
- ・ 生活保護法医療機関指定
- ・ 公害医療機関指定
- ・ 指定自立支援医療機関指定
- ・ 運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認
- ・ 障害児（者）リハビリテーション基準承認 等

4 法人の経緯

1961年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961年 4月	社会館保育部認可
1966年 4月	心身障害幼児の通園施設「愛育園」開設
1973年 4月	「愛育園」（精神薄弱児通園施設、定員 30 人）認可
1987年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989年 7月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992年 2月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996年 4月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998年 10月	障害児（者）地域療育等支援事業
1999年 4月	自立訓練ホーム・レスパイトケア開始
2000年 3月	名古屋キリスト教社会館第二次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2000年 9月	自立ホーム のどか、うらら開始（無認可）
2001年 4月	「南・緑生活支援センター のどか」開始
2002年 4月	グループホーム「のどか」「うらら」認可
2002年 7月	障害児者地域生活支援センターみなみ開始

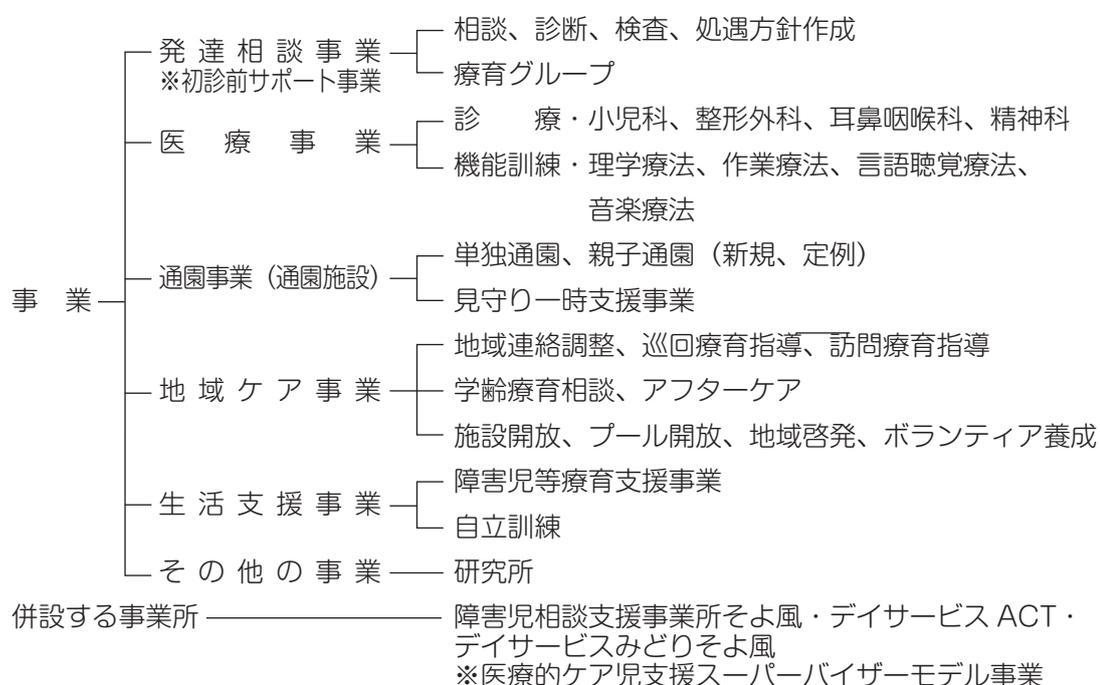
2003年 1月 「生活支援センターぴぼっと」開始
 2003年 4月 支援費制度開始
 知的障害児通園施設 名古屋市立あつた学園 名古屋市より運営移管
 「発達センターあつた」開始
 知的障害児通園施設 名古屋市立ちよだ学園 名古屋市より運営移管
 「発達センターちよだ」開始
 児童デイサービスちよだ開始
 児童デイサービス ACT 開始 グループホーム「天歩」開始
 2003年 6月 子どもセンターみどり開所 児童デイサービスみどり開始
 2004年 6月 児童デイサービスあつた開始
 2006年 4月 障害者自立支援法施行
 2006年 6月 ケアホーム「ホームしゃかいかん」開始
 2006年 10月 障害者自立支援法本格施行に伴う児童福祉法の改定により通園施設が契約制度に
 2006年 11月 名古屋キリスト教社会館第三次将来計画構想策定 - 21世紀福祉プラン改訂版-
 2007年 4月 事業体系移行にともない生活介護事業開始 定員 20 名
 2009年 8月 社会館「生活支援センターぴぼっと」竣工
 2010年 7月 「名古屋キリスト教社会館 東館」開所
 2010年 8月 東館 2 階 療育グループ専用室確保
 2010年 9月 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 創立 50 周年
 2011年 3月 ケアホーム 5 か所目「いっぽ」開始
 2012年 10月 相談支援事業所ぴぼっと開所
 2012年 12月 みどり菜の花保育園開所
 2013年 3月 子どもセンターとくしげ開始
 2013年 5月 児童発達支援事業所 みどりそよ風 開所
 2013年 7月 障害児相談支援事業所 そよ風
 障害児相談支援事業所 あつた
 障害児相談支援事業所 ちよだ
 2013年 11月 名古屋キリスト教社会館第四次将来計画構想策定
 2014年 4月 「社会館障害者基幹相談支援センター」(コンソーシアム) 開所
 2014年 6月 「東部地域療育センターぽけっと」開所
 2016年 4月 多世代交流西館開所。南部地域療育センターそよ風 通園部
 定員 50 名に変更
 2019年 4月 生活支援センターぴぼっと西館開所
 2019年 7月 東部地域療育センターぽけっと 初診前サポートモデル事業開始
 2020年 3月 名古屋キリスト教社会館第五次将来計画構想策定
 2020年 7月 東部地域療育センターぽけっと 地域支援調整事業開始
 2021年 7月 南部地域療育センターそよ風 初診前サポート事業開始

5 建物の概要

敷地面積	敷地 3,066.35㎡
構 造	本館：鉄筋コンクリート造 3 階建 東館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階部分 西館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階一部
規 模	建築面積 延べ床面積 本館：1,751㎡ 東館：236.47㎡ 西館：163.89㎡
併設施設	・菜の花保育園（定員 170 人） ・デイサービス友（定員 25 名） ・名南ユースセンター ACT ・デイサービス ACT ・小規模多機能つどい ・子育て支援センターなのはな

6 事業の概要

(1) 事業の種類



(2) 担当地域

事業区分	担当地域
発達相談事業 医療事業 地域ケア事業 通園事業	南区、緑区

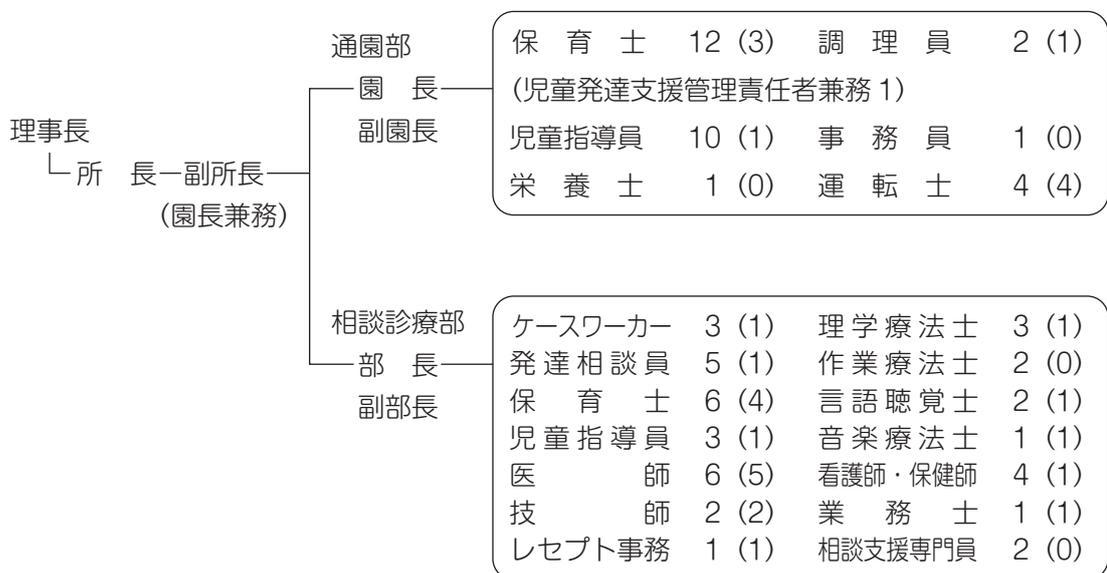
〈参考〉

人口、面積（2021年10月1日）

	名古屋市	南区	緑区	2区合計	
人口（人）	2,325,916	133,005 (5.7%)	248,755 (10.7%)	381,760 (16.4%)	
児童人口	0～5歳	106,398	5,396 (5.1%)	11,912 (11.2%)	17,308 (16.3%)
	0～17歳	329,130	16,969 (5.2%)	44,609 (13.6%)	61,578 (18.7%)
面積（km ² ）	326.45	18.47 (5.7%)	37.85 (11.6%)	56.32 (17.3%)	

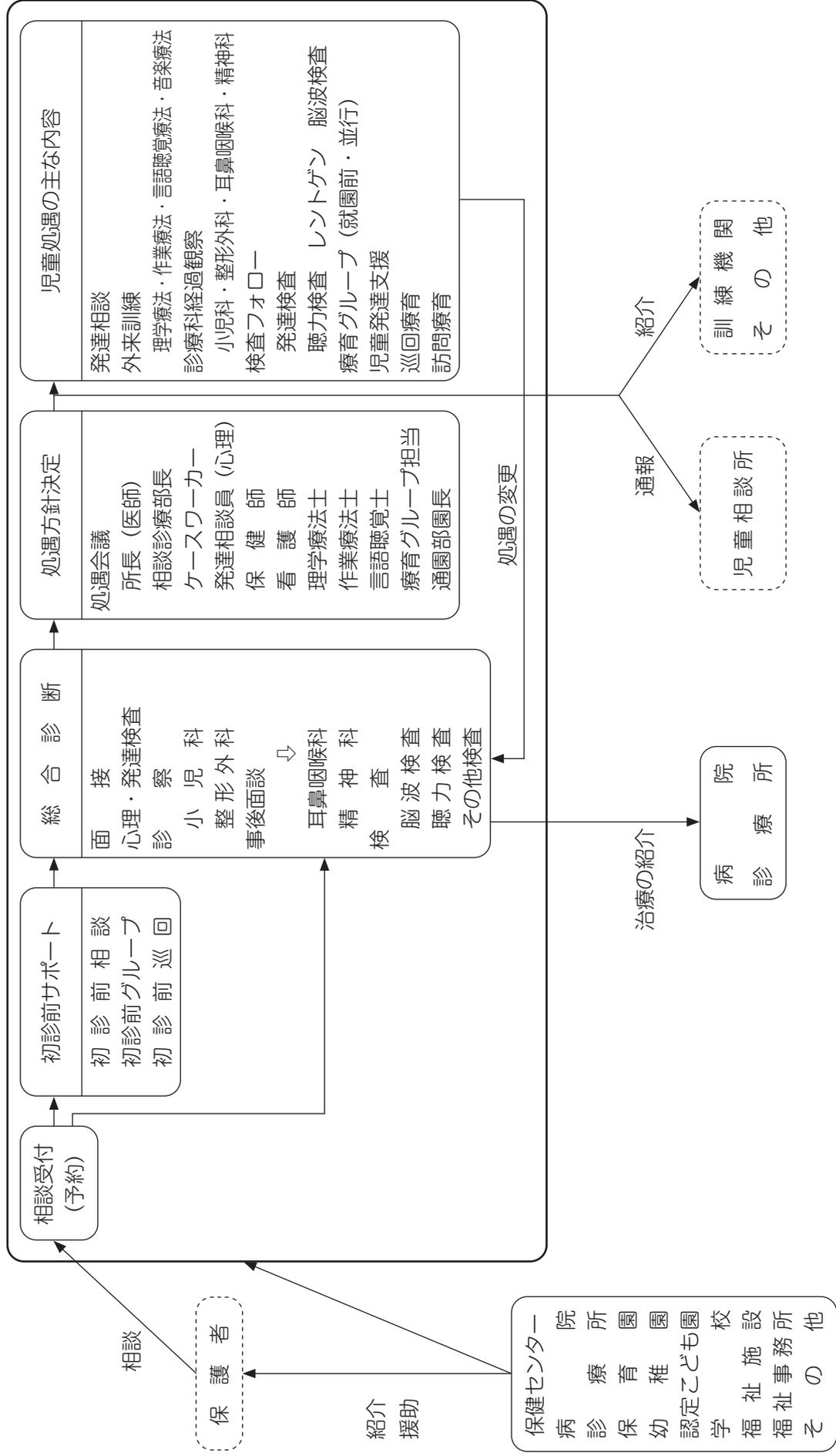


(3) 組織・職員体制〔()内、嘱託職員・パート職員再掲〕(2021年4月1日現在)



(4) 相談の流れ

南部地域療育センターそよ風



第2 発達相談事業

1 新規相談

2021年度は昨年度と同様にコロナが大きく影響した。保育園や幼稚園の休園も多数あり、保健センター乳幼児健診も1～2か月遅れとなっていた。しかし年度末には一定の感染対策が取られるようになり、休園が減るなど社会活動を止めない動きも出てきた。

当センターの新規相談希望者は昨年度方針に基づき「気になる段階からの支援」を主眼とし、受診者を人口の15%として枠を増やす設定をしてきた。そのため昨年度よりは約50件ほどの増加となった。2021年度は4月～6月は緊急事態宣言や蔓延防止措置が出ていたこともあり、通常通り開所していても1.2歳児初診はあまり予約が入らなかった。しかし、一般初診の希望は多く6月7月は1.2歳児初診を一般初診へ振り替えた。

当センターでは「気になる段階からの支援」を主眼とし、「必要な子どもが」「必要な支援を」「必要な時期に」受けられるように初診やその後のフォローの在り方を構築してきた。2017年度から1.2歳児を一般の初診とは違う方法で実施し、2021年度は5年目になった。それらの評価はコロナの影響があり難しいところである。

名古屋市は「今後の名古屋市早期子ども発達支援体制に関する方針」を定め、2020年度7月から東部地域療育センターで「地域支援調整部門」が導入された。当センターでは2021年7月から地域支援調整部門の一部である初診前サポート事業を実施した。254人(内初診前巡回1人)に実施し、待たずにグループにつながり、主訴が整理できたうえで初診につながることができた。

- ・新規相談は、1週間に一般初診を4ケース、1.2歳児初診は8ケース、合診は1ケースを実施した。2020年度より1.2歳児初診数を増やしている。年間の初診受診者総数は470人で、内訳は一般初診176人、1.2歳児初診258人、合診36人である。1.2歳児初診は、全初診の54%をしめている。1.2歳児初診児の258人のうち在園児は106人で41%である。
- ・初診数は今までの最大数で、満1歳と満3歳の子どもが増加傾向である。昨年度から特に緑区では、1歳6か月児健診から直接紹介されるケースが増えていることもあり初診数が増加した。また、保健センター紹介の満3歳が増えている。南区・緑区ともに増加しており、3歳児健診からの紹介ではないかと思われる。また、主訴では特に満3歳満4歳の「性格行動」の項目が増加している。「性格行動」には落ち着きのなさやかんしゃくなどが入り、コロナによる外出自粛により就園前に子ども同士で接する機会が少ないことが影響しているかもしれない。
- ・障害種別や診断区分の「自閉症」は昨年度同様減っているが、それは早期に確定診断することよりも経過をみて判断することが影響していると思われる。
- ・1.2歳児初診の児は当日に発達検査を行わないため、障害種別は「未決定」とした。障害種別と診断区分に未決定が多いのはこのためである。
- ・1.2歳児初診の児は258人中約8割に自閉症スペクトラムや何らかの発達障害の特性がみられた。
- ・2017年度以降1.2歳児初診受診者のうち発達外来に至った者は以下のとおりである。1.2歳児初診の約半数がその後の診察を受けている。
- ・再診率は昨年と同様に増えている。今年度の段階で約半分が再診へつながっている。

受付診察後、診察に至ったケース数

(2021年度、単位：人)

初診年度	受付初診 総数	診 察 再 診 数					合計	%
		2017	2018	2019	2020	2021		
2017	221	54	40	9	12	0	115	52
2018	213		69	34	17	14	120	56
2019	220			47	48	14	95	43
2020	235				116	48	116	49
2021	258					118	118	46

表2-1 区別状況

(2021年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
南区	3	17	32	37	22	14	7	132	28.1
緑区	4	47	113	92	39	29	6	330	70.2
港区		1	1	5	1			8	1.7
計	7	65	146	134	62	43	13	470	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表2-2 名古屋市中央療育センター・地域療育センターの相談歴

(2021年度、単位：人)

	緑区	南区	計
名古屋市中央療育センター		2	2
東部地域療育センター	4		4
計	4	2	6

表2-3 主訴(症状)別状況

(2021年度、単位：人)

主 訴	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
言語発達		21	94	49	15	7	1	187	39.8
知的発達		2		3	2			7	1.5
運動発達	1	4	2			1		8	1.7
全体発達	6	26	14	9	3	2		60	12.8
性格行動		12	36	73	42	33	12	208	44.3
計	7	65	146	134	62	43	13	470	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表2-4 センターへの紹介経路

(2021年度、単位：人)

紹介機関	就学前児童							小学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年		
保健センター	1	36	91	77	23	13	4		245	52.1
医療機関	4	16	17	9	5	3	2		56	11.9
保育園		2	14	26	17	9	1		69	14.7
幼稚園				5	5	5	1		16	3.4
認定こども園			1			2	2		5	1.1
学校						1			1	0.2
地域療育センター			3	3	2				8	1.7
児童相談所		1			1	1			3	0.6
児童福祉施設				1					1	0.2
いこいの家									1	0.2
知人		1	1	3	1	3			9	1.9
家族		3	12	6	4	2	1		28	6.0
その他	2	6	7	4	4	4	2		28	6.0
計	7	65	146	134	62	43	13	0	470	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) その他はインターネットなどである。

表2-5 障害種別状況

(2021年度、単位：人)

障害種別	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
知的障害	3	4	1	3		1		12	2.6
自閉症		1	3	22	22	24	6	78	16.6
自閉症+知的障害				8	2		1	11	2.3
肢体+知的障害			1					1	0.2
知的障害+肢体不自由	1							1	0.2
肢体不自由	1		1					2	0.4
言語発達障害等		4	2	20	29	13	4	72	15.3
重度心身障害				2				2	0.4
聴覚障害				1				1	0.2
視覚障害			1					1	0.2
その他	2	16	1	4	8	4	1	36	7.7
適正					1	1	1	3	0.6
未決定		40	136	74				250	53.2
計	7	65	146	134	62	43	13	470	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) 言語発達障害等には境界域、ADHD、吃音を含む。

(3) その他には、保健・性格行動を含む。

(4) 未決定は、発達検査が未実施のため障害種別が確定されていないものである。

表 2 - 6 診断区分別状況

(2021 年度、単位：人)

診断区分		就 学 前 児 童						計	%	
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳			6 歳
知的障害	ダウン症候群	3	1	1				5	1.1	
	その他の症候群	1						1	0.2	
	水 頭 症			1				1	0.2	
	て ん か ん		1			1		2	0.4	
	知的障害		3		4		1	8	1.7	
	自 閉 症		1	3	31	26	25	8	94	20.0
	言語発達遅滞		4	1	9	12	3	1	30	6.4
	構音障害				1	4	3		8	1.7
	吃 音				2				2	0.4
	知的障害+脳性麻痺				1				1	0.2
	脳性麻痺+知的障害			1					1	0.2
	脳 性 麻 痺	1		1					2	0.4
	中枢性協調障害				1	4	3		8	1.7
	運動発達遅滞	1	14						15	3.2
	境 界 域				1	1	2	1	5	1.1
	多 動 症			1	6	9	4	1	21	4.5
	正 常 域					1	1	1	3	0.6
	視 覚 障 害			1					1	0.2
	難 聴				1				1	0.2
	整形外科疾患			1					1	0.2
	未 決 定		40	134	74				248	52.8
	そ の 他	1	1	1	3	4	1	1	12	2.6
	計	7	65	146	134	62	43	13	470	100

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) 運動発達遅滞はその他より、新たに項目として設けた。

(3) 診断区分は複数の診断名がある場合、主たる1つの診断名が属する区分で計上した。

(4) 未決定は、発達検査が未実施のため、診断区分が確定されていないものである。

表2-7 処遇方針作成状況

(2021年度、単位：件)

処遇方針	就学前児童							計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	
経過観察		1		2	1	10	9	23
発達相談	5	65	142	130	62	33	4	441
P T 訓練	3	18	4					25
O T 訓練			1	5	16	7	1	30
S T 訓練				5	12	12	3	32
摂食機能訓練	2	9	2					13
就園前グループ	5	49	108	22	1			185
並行グループ			1	12	10	8	2	33
通園施設方向		2	5	8	1			16
他機関紹介		2		1			1	4
計	15	146	263	185	103	70	20	802

注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。

(2) 件数は2021年度新規相談者に対し、その年度内に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

(4) 「経過観察」は「発達相談必要時」と同義である。

2021年度 南区・緑区・港区通園希望者

区	就学前児童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
南区		1	6	1			8
緑区		5	24	2	1		32
港区							
計		6	30	3	1		40

注) 年齢は2021年度の学年齢である。

進路先内訳 南部地域療育センターそよ風 28人

発達センターあつた 7人

待機児 5人

表2-8 処遇方針追加変更状況

(2021年度、単位：件)

処遇方針	就学前児童						小学生 高学年	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
発達相談		3						3
P T 訓練	2	1	1			1		5
O T 訓練		1	1	10	27	11		50
S T 訓練				10	29	30		69
摂食機能訓練	1							1
就園前グループ	2	15	48		1			66
並行グループ			1	18	17	10		46
通園施設方向		2	20	1	1			24
他機関紹介				1				1
転居終了		6	6	2	10	4	1	29
計	5	28	77	42	85	56	1	294

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) 件数は該当年度に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

2 発達検査および発達相談

(1) 新規相談児童の発達検査

表 2-9 初診の状況 (発達相談)

(2021 年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童						計
	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
南 区	7	27	35	24	19	7	119
緑 区	30	96	81	44	34	8	293
港 区		1	5	1			7
合 計	37	124	121	69	53	15	419

注) 初診時の検査および初回受付診察後 (225)、合診後の初回相談を含む。
年齢は初診時の満年齢である。

(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続時のフォロー状況 (延べ人数) は、前年度 1033 人、今年度 1025 人

表 2-10 継続相談児童のフォロー状況

(2021 年度、単位：件)

区	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
南 区		8	37	87	63	66	262
緑 区	3	30	127	187	182	230	759
港 区					2	2	4
合 計	3	38	164	275	247	298	1025

注) 年齢は継続相談時の学年齢である。

・来所回数 (単位：人)

回数	人 数	割 合
1 回	667	79.5%
2 回	165	19.6%
3 回	5	0.6%
4 回	2	0.2%
5 回	1	0.1%

実人数 840 人

(3) 検査結果

表 2 - 11 年齢別検査結果

(2021 年度、単位：人)

検査数値	就 学 前 児 童						計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳		
20 以下		2	1	3	2	6	14	1.7
21 ~ 35		1	4	5	6	9	25	3.0
36 ~ 50		2	8	16	18	16	60	7.1
51 ~ 75	1	16	51	58	41	39	206	24.5
76 以上	2	15	68	136	137	177	535	63.7
計	3	36	132	218	204	247	840	100

注) 年齢は学年齢である。

表 2 - 12 障害別検査結果

(2021 年度、単位：人)

障害種別	1 度	2 度	3 度	4 度	非該当	計
	20 以下	21 ~ 35	36 ~ 50	51 ~ 75	76 以上	
知的障害	3	10	24	45	3	85
自閉症	3	12	33	133	309	490
言語発達障害等			1	7	127	135
肢体不自由		1	1	4	4	10
重心		8	2		1	11
聴覚				1		1
視覚						
適正						
その他(保健)			1		27	28
未決定				15	65	80
計	6	31	62	205	536	840

注) 愛護手帳は非該当だが、知的障害の診断の子どもが 3 人いる。

いずれも直近の発達検査で DQ がわずかに 75 を上回ったケースであるが、診断名は知的障害のままである。

3 初診前サポート事業

名古屋市は今後の名古屋市子ども発達支援体制に関する方針を定め、子どもの発達に不安を抱える保護者が増加し初診の待機期間が長期化していることに鑑み、保護者と子どもを早期に支援することや支援の入り口を「診察の受付」から「相談の受付」とすることにより、より気軽に相談できるようにすることを療育センターの役割とした。2020年度から東部地域療育センターに地域支援調整部が設置され、当センターでも2021年度7月から初診前サポート事業を実施することとなった。

当センターでは2017年度から1.2歳児に対して相談やグループ療育を主眼とし、育児に並走する発達支援の方法を構築してきた。新たに初診前サポート事業を立ち上げるにあたり地域に定着したこれまでの方法を生かしつつ、充実させる要素として集団の場と個別相談の場を設け、多軸で子どもを見ることと保護者との共有を図る機会となるようにした。

表2-13 インテーク実施状況

(2021年度、単位：人)

累計(7～3月)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
就園	3	24	65	24	21	8	145
未就園	8	55	44	2			109
合計	11	79	109	26	21	8	254

表2-14 インテーク実施状況

(2021年度、単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
未就園児				9	9	9	19	14	17	10	9	13	109
就園児				11	22	20	17	19	24	12	12	8	145
計	0	0	0	20	31	29	36	33	41	22	21	21	254

表 2 - 15 区別状況

1.2 歳児

(2021 年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
南 区	2	12	27	1	42
緑 区	9	67	78		154
港 区			2		2
区 外			1		1
計	9	79	108	1	199

3 歳児以上

(2021 年度、単位：人)

区	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南 区	9	5	1	15
緑 区	16	16	7	39
港 区	1			1
計	26	21	8	55

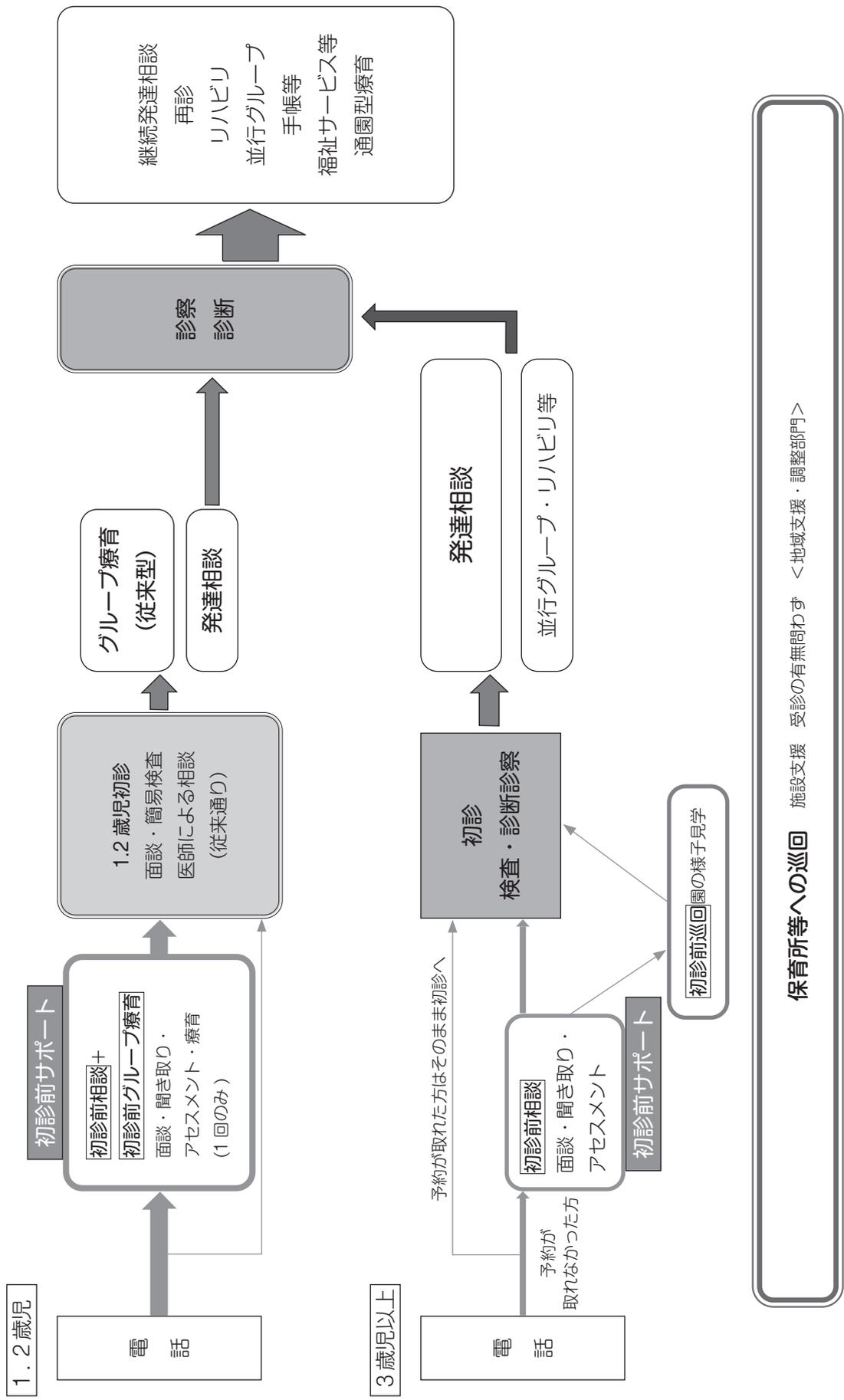
表 2 - 16 処遇方針 (2021 年度、単位：件)

処遇	合計
療育グループ	97
他機関紹介	1
1.2 歳児初診	187
一般初診	47
その他	1
合計	333

初診前巡回

実施者数 1 名 2 歳児 保育園

南部地域療育センター 初診前サポート イメージ図



保育所等への巡回 施設支援 受診の有無問わず <地域支援・調整部門>

4 療育グループ

(1) 就園前グループ

- ・0・1・2・3歳児発達に不安のある就園前の子どもを対象に親子教室を実施した。そよ風にて、ぐんぐん教室10グループ、緑区の子どもセンターみどりにてぴよんぴよん教室8グループ、子どもセンターとくしげにてにこにこ教室5グループを実施した。次年度参加予定のプレグループは11月から毎月1回計4グループ、3月に3か所4グループをそれぞれ実施した。2021年度は、合計31グループ・225組の親子が利用した。
- ・7月より新たに、「初診前サポート事業」が始まった。初診前の児も受け入れを行い、初診前サポート事業に来てからできるだけ待つことがないようにグループの受け入れができるようにした。
- ・感染症対策として、昨年度同様各グループの受け入れ人数をコロナ禍以前のおおむね半数として隔週での実施とした。進路の状況やグループ参加状況をふまえ、目標や参加期間を保護者と確認するために個人懇談を実施した。
- ・2021年度より新たにまめグループ、たまご教室を開始した。知的な遅れを含む運動発達遅滞や重心の子たちの通う場であったひよこさぎグループが、自閉症の傾向を持つ子たちの超早期の受け皿としての役割も出てきていたため、より低年齢のグループをまめグループ、以前では子育て教室の対象児をたまご教室と分けて行うこととした。
- ・隔週実施のため例年より行事やとりくみを縮小しての実施だったが、遠足は家族遠足ではなく、人数を制限して親子遠足に切り替えて行った。また、進路指導では、頻度が少ないため、保護者とスタッフが意見をすり合わせていく難しさが引き続きあったが、人数が少ないため、1人ひとりの親子に丁寧に関わることができた。内容面は親子で一緒にあそぶ中で保護者が子どもの理解を深め、周りに伝えられること、保護者自身も楽しむことを大切に、各グループでとりくみを工夫した。
- ・保育園や幼稚園に通いながらグループを利用する親子が今年度は17組在籍した。ぐんぐん教室12組、ぴよんぴよん教室2組、にこにこ教室3組が参加した。全体数からの割合としては、例年と大きく変わりはない。(約1割)
- ・昨年度は「兄弟保育ボランティア」は実施できなかった。

表2-17 過去10年の就園前グループ実施人数

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	合計	並行利用
2012年度	14 (1)	86 (6)	131 (22)	6 (2)	1	238 (31)	4
2013年度	13	108 (6)	130 (37)	3 (2)		254 (45)	3
2014年度	13	90 (10)	152 (26)	3		258 (36)	8
2015年度	15 (2)	88 (9)	134 (25)	7 (4)		244 (40)	19
2016年度	11	84 (2)	127 (27)	5 (2)		227 (30)	17
2017年度	8	71 (5)	118 (29)	6 (2)		203 (36)	19
2018年度	6	69 (2)	124 (17)	5 (5)		203 (23)	17
2019年度	5	49 (2)	108 (12)	5		167 (14)	14
2020年度	4	74 (2)	119 (12)	5 (2)		202 (16)	21
2021年度	12	88 (5)	122 (23)	3		225 (28)	17

注) ()内は途中終了児(再掲)

表2-18 就園前グループの実施状況

(2021年度、単位:人)

	グループ名	実施状況	対象児童	職員体制	
ほこぼこ教室	そよ風 東館	かば A・B	月曜日* A 5月開始 B 4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2歳児)	保育士3 (パート2) 心理1
		たまご教室	月曜日隔週 4月開始	早期に障害が発見され、知的障害、肢体不自由、重複障害を伴う子ども。(0・1歳児)	保育士1 看護師1 PT1
		まめ	火曜日隔週 4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(0・1歳児)	保育士2 OT1
		らいおん A・B	火曜日* A 5月開始 B 4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2歳児)	保育士3 (パート2) 指導員1
		きりん A	水曜日* 10月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2・3歳児)	保育士3 (パート2)
		くま	木曜日隔週 4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1歳児)	保育士1 CW1 指導員1
		りす	木曜日隔週 8月開始		保育士2 心理1 指導員1
		ひよこぎ	金曜日 4月開始	早期に障害が発見され、知的障害、肢体不自由、重複障害を伴う子ども。	保育士2 指導員2 心理1 看護師1 PT1
		プレぐんぐん	3/16、3/18	次年度グループ参加予定の子ども(0・1歳児)	保育士2 指導員3
びよびよ教室	子どもセンターみどり	ちゅうりっぷ	火曜日隔週 4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1歳児)	保育士1 (パート1) 指導員2
		ひまわり	火曜日隔週 8月開始		保育士3 (パート2) 指導員1
		さくら A・B	水曜日* ABともに4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2歳児)	保育士2 (パート1) 指導員2
		たんぽぽ A・B	木曜日* 4月から開始		保育士1 (パート1) 指導員2
		こすもす A	金曜日* 9月開始		保育士2 (パート1) 指導員1
		こすもす B	金曜日隔週 10月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1歳児)	保育士2 (パート1) 指導員1
		プレびよびよん	3/15	次年度グループ参加予定の子ども(0・1歳児)	保育士1 指導員2
こいこい教室	子どもセンターとくしげ	あしか A・B	月曜日* A 5月開始 B 4月開始	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2歳児)	保育士2 (パート2) 指導員1
		ぺんぎん A	水曜日* (7月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2・3歳児)	保育士2 (パート1) 指導員1
		ぺんぎん B	水曜日* (4月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(2歳児)	保育士3 (パート1) 指導員1
		らっこ B	木曜日隔週 (9月から開始)	ことばの遅れ、発達や行動に不安がある子ども。(1歳児)	保育士3 (パート1)
		プレにこにこ	3/17	次年度グループ参加予定の子ども	保育士2 指導員3

注) 曜日の右に*のついているグループは、通常であれば週1回の実施であったが、コロナのため、密をさけるために、1グループの人数を通常より少なくし、隔週実施とした。

表2-19 就園前グループ児童状況

(2021年度、単位:人)

グループ名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
かば A			11 (2)		11 (2)
かば B			12 (2)		12 (2)
たまご教室	4	3			7
まめ	3	7			10
らいおん A			9 (1)		9 (1)
らいおん B			11 (3)		11 (3)
きりん A			6 (2)	1	7 (2)
くま		10			10
りす		10			10
ひよこさぎ	1	9 (2)	5	1	16 (2)
プレぐんぐん	3	11			14
ちゅうりっぷ		6			6
ひまわり		9 (3)			9 (3)
さくら A			7 (2)		7 (2)
さくら B			7 (1)		7 (1)
たんぽぽ A			8 (3)		8 (3)
たんぽぽ B			7 (1)		7 (1)
こすもす A			6		6
こすもす B		6			6
プレぴよんぴよん	1	3			4
あしか A			8 (1)		8 (1)
あしか B			9 (4)		9 (4)
ぺんぎん A			7	1	8
ぺんぎん B			9 (1)		9 (1)
らっこ B		8			8
プレにこにこ		6			6
計	12	88 (5)	122 (23)	3	225 (28)

注) () 内は途中終了児 (再掲)

① 療育目標

- ・子どもの要求を大切に、興味を広げ、意欲的に生活し、あそぶ力を育てる。
- ・親子あそびを通して、お母さんと一緒に楽しくあそぶ経験を積んでいく。
- ・食事・排泄・着替えなどの基本的な生活習慣の自立を家庭と共に考えあう。
- ・生活基盤、生活リズムの確立を通し、健康な身体づくりをすすめる。
- ・姿勢、運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなど感覚への働きかけを大切にする。

② 日 課

子どもの24時間の生活リズムを家族と共に考え、日課づくりを行った。

ぐんぐん・びよんびよん・にこにこ教室の日課

9:45	登室・健康チェック（コロナ対策として） 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	はじまりのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操 排泄
10:30	とりくみ (子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮)
11:00	おやつ
11:15	紙芝居・絵本の読み聞かせ さようなら

ひよこ・うさぎグループの日課

9:45	登室・健康チェック（コロナ対策として） 自由あそび・連絡ノート受け渡し 問診・健康チェック
10:20	はじまりのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:35	とりくみ (子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮)
	おむつ替え
11:00	おやつ
11:30	さようなら

③ 年間行事

4月		10月	親子遠足
5月	こいのぼり製作	11月	
6月	就園学習会	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	お正月の遊び
8月		2月	節分
9月		3月	

④ グループ健康会議

ひよこ・うさぎグループを中心に、子どもの健康状況のとらえを共有することを目的に、小児科医師・保健師・看護師・保育士・指導員により、年2回、健康会議を実施した。また、会議の中で、健康や障害についての学習会を行った。

表2-20 就園前グループ進路先状況

(2021年度、単位：人)

進路先	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
通園施設		1	20	1	22
公立保育園		4【3】	14【11】		18【14】
民間保育園	2	3【2】	10【4】		15【6】
公立幼稚園			2	1	3
民間幼稚園			46		46
認定こども園		2	7		9
グループ継続	10	53	1		64
みどりそよ風		8			8
デイサービスACT		5			5
児童発達支援事業所					
転居		2	1		3
途中終了		5	19		24
終了		5	2	1	8
その他					
計	12	88【5】	122【15】	3	225

注)【】内は障害児保育の数(再掲)

表2-21 就園前グループ障害種別状況

(2021年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
知的障害	5	6	2	2	15
肢体不自由		1	2		3
肢体不自由+知的障害	1	1	2		4
自閉症		1	11		12
自閉症+知的障害		1	7	1	9
言語発達障害		3	12		15
重心		1	2		3
運動発達遅滞			1		1
視覚障害		1			1
その他保健	3	8			11
未決定	4	66	81		151
計	13	89	120	3	225

表2-22 就園前グループ別状況

(2021年度、単位:人)

区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
南区	3	17	24		44
緑区	9	71	97	3	180
港区			1		1
計	12	88	122	3	225

表2-23 就園前グループ月別在籍人数

(2021年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	30	60	80	97	101	115	125	141	163	167	176	182
月末の数	60	80	97	101	115	125	141	163	167	176	182	56
新入児の数	31	21	18	6	16	13	20	24	10	14	8	7
終了児数	1	1	0	2	2	4	4	2	6	5	2	133

表2-24 就園前グループ月別参加人数(延べ数)

(2021年度、単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ぐんぐん教室	かばA	1	7	11	10	10	6	13	11	14	15	12	6	116
	かばB	12	15	15	12	10	12	13	18	8	7	14	7	143
	たまご教室	1	6	5	6	8	3	9	8	10	9	12	7	84
	まめ	1	2	6	5	6	6	7	11	12	7	12	7	82
	らいおんA		4	12	11	10	11	14	11	15	6	12	7	113
	らいおんB	16	13	14	13	12	10	11	10	4	7	10	7	127
	きりんB							4	4	8	4	6	3	29
	くま	3	2	13	8	5	11	8	12	15	13	13	8	111
	りす					5	4	9	13	15	14	7	7	74
	ひよこさぎ	9	9	10	13	13	21	27	24	21	17	13	5	182
プレぐんぐん								1	1	3	5	14	24	
ぴよんぴよん教室	ひまわり			2	3	6	10	8	8	8	4	9	4	62
	ちゅうりっぷ	7	9	8	10	5	12	9	7	4	9	9	6	95
	さくらA	2	4	11	7	6	9	9	4	8	6	4	4	74
	さくらB	8	6	9	6	9	7	10	5	10	6	9	5	90
	たんぽぽA	4	11	10	9	7	10	9	10	11	5	4	5	95
	たんぽぽB	10	7	10	10	6	10	12	11	9	10	9	4	108
	こすもすA						2	4	5	9	8	6	5	39
	こすもすB							8	11	6	9	5	6	45
プレぴよんぴよん												3	3	
にっこ教室	あしかA		2	4	6	9	5	11	10	11	11	10	7	86
	あしかB	11	9	12	8	8	8	8	17	5	2	6	4	98
	ぺんぎんA				2	3	9	5	6	9	4	9	5	52
	ぺんぎんB	10	11	11	11	10	11	9	3	12	12	5	6	111
	らっこB						3	12	15	12	10	13	8	73
	プレにっこ												6	6
計	95	117	163	150	148	180	229	235	237	198	214	156	2122	

(2) 就園前グループアフターのつどい

2021年度は、コロナウィルス感染拡大の状況下のため、例年行っているつどいは中止した。現況をとらえるための往復はがきを送り、返信してもらった。(96 通中 83 通返信あり)

(3) 並行グループ

- ・並行グループ（さんさん教室）は2週に1度のグループをそよ風東館にて、8グループ実施した。子どもセンターとくしげでは月1回土曜日に1グループを通年で実施した。合計9グループを実施した。
- ・活動時間は、そよ風では14:30～16:00 子どもセンターとくしげでは10:00～11:30
- ・グループ編成は基本的には年齢、障害、発達状況、家庭状況を考慮した。
- ・3歳児の子どもたちは体力面を考慮し、後半期（10月～）からグループを開始していた。しかし、低年齢から入園している子どもたちが増え、ニーズが出てきたことにより、2019年度から前半期（4月～）グループを実施している。
- ・保護者の希望、園の先生の紹介とつながってくるケースもあり、親子の支援はもちろん、園との連携や支援も課題となっている。

表2-25 並行グループの実施状況

(2021年度)

	実施状況	対象児の障害	療育目標	職員体制
さん さん 教室	ひこうき（前半） 第1・3・5火曜 （4～9月）	ADHD DCD MR 言語発達遅滞 ASD ADD 運動機能の特異的発達障害	・取り組みを通して達成感を味わい、自信につなげていく。	保育士1 指導員3 OT1
	ばす 第2・4火曜日 （4～9月）	ASD MR ADHD	・体や手先の使い方を 知っていく。	保育士3 指導員1 CW1
	ろけっと 第1・3・5木曜 （4～9月）	ASD DCD ADHD MR 母子分離不安	・友だちとあそぶ楽し さを知る。	保育士1 指導員3 心理1
	しんかんせん（前半） 第2・4木曜 （4～9月）	ASD DCD ADHD MR 聴覚過敏 社会性コミュニケーション障害		保育士3 指導員1 心理1
	しんかんせん（後半） 第1・3・5火曜 （10～3月）	ASD DCD 吃音 低身長 言語発達遅滞		保育士2 指導員3
	へりこぶたー 第2・4火曜日 （10～3月）	ASD MR ADD 母子分離不安		保育士3 指導員1 CW1
	よっと 第1・3・5木曜 （10～3月）	ASD MR ダウン症		保育士1 指導員3 心理1
	ひこうき（後半） 第2・4木曜 （10～3月）	ASD DCD		保育士3 指導員1 心理1
きしゃ 月1回土曜 （4～3月）	ASD MR DCD ADHD 構音遅滞 言語発達遅滞		保育士3 指導員3	

表 2 - 26 並行グループ児童状況

(2021 年度、単位：人)

		実施状況	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
さん さん 教室	そ よ 風 東 館	ひこうき (前半) 第 1・3・5 火曜 (4～9月)		4	4	8
		ばす 第 2・4 火曜日 (4～9月)	7			7
		ろけっと 第 1・3・5 木曜 (4～9月)		2	4	6
		しんかんせん (前半) 第 2・4 木曜 (4～9月)		4	3	7
		しんかんせん (後半) 第 1・3・5 火曜 (10～3月)	3	4 (1)		7 (1)
		へりこぷたー 第 2・4 火曜日 (10～3月)		2	6	8
		よっと 第 1・3・5 木曜 (10～3月)	5			5
		ひこうき (後半) 第 2・4 木曜 (10～3月)	4	3		7
	きしゃ 月 1 回土曜 (4～3月)			7	7	
合計			19	19 (1)	24	62 (1)

① 日 課

各グループの状況、とりくみ内容によって日課を変えている。

さんさん教室の日課

14:30 (10:00)	登室・健康チェック (コロナ対策として) 自由遊び(描画、パズルなど) 連絡ノート受け渡し
15:00 (10:30)	こんにちはのつどい スケジュール確認 呼名 とりくみ① おやつ とりくみ② おわりのつどい シール貼り
16:00 (11:30)	さようなら

注) ()内は子どもセンターとくしげにて実施グループ

表2-27 並行グループ障害種別状況

(2021年度、単位:人)

障害種別	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害	1	2	2	5
自閉症+知的障害	3	1		4
自閉症	12	12 (1)	17	41 (1)
言語発達障害等	2	4	4	10
未決定	1		1	2
計	19	19 (1)	24	62

注) ()内は途中終了児(再掲)

表2-28 並行グループ区別状況

(2021年度、単位:人)

区	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区	5	3 (1)	4	12
緑区	14	16	20	50
計	19	19 (1)	24	62

注) ()内は途中終了児(再掲)

表2-29 並行グループ在籍児の所属園

(2021年度、単位：人)

区 分	3歳児	4歳児	5歳児	計
公立保育園	1	3	3	7
民間保育園	11	6	7	24
公立幼稚園			2	2
民間幼稚園	2	9	7	18
認定子ども園	5	1	2	8
そ の 他			3	3
計	19	19	24	62

表2-30 並行グループ月別在籍児数

(2021年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数		24	30	34	34	33	17	40	42	45	45	45
月末の数	24	30	34	34	33	17	40	42	45	45	45	
新入児の数	24	6	4				23	3	3			
終了児数					1	16		1				45

表2-31 並行グループ月別参加人数(延べ数)

(2021年度、単位：件)

グループ名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
さん さん 教室	ば す	6	12	13	13	13	7							64
	そ へりこぶたー							9	9	5	8	9	3	43
	よ しんかんせん	4	9	11	9	5	8	7	7	11	7	9	5	92
	風 ひこうき(前半)	8	6	21	12	13	6							66
	東 よ っ と							9	8	9	7	7		40
	館 ろ け っ と		6	10	8	10	10							44
	室 ひこうき(後半)							12	13	13	5	6		49
キ き し ゃ	6	6	6	5		5	5	6		3	5	6	53	
計		24	39	61	47	41	36	42	43	38	30	36	14	451

表 2 - 32 並行グループ終了状況

(2021 年度、単位：人)

区 分		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
小 学 校	通 常 学 級			10	10
	特別支援学級・学校			3	3
グ ル ー プ 継 続		9	9	5	23
終 了		10	10	6	26
計		19	19	24	62

表 2 - 33 グループ見学会参加状況

	グループ名		日時	参加人数
さ ん さ ん 教 室 そ よ 風	ば す	前半期 (4～9月)	2021.6.22	2ヶ園 2名
			2021.7.13	2ヶ園 2名
			2021.7.27	2ヶ園 2名
			2021.6.29	1ヶ園 1名
	ひ こう き		2021.7.6	2ヶ園 2名
			2021.7.20	1ヶ園 1名
	しんかんせん		2021.6.24	2ヶ園 2名
			2021.7.8	1ヶ園 1名
ろ け っ と		なし		
へりこぶたー よ っ と ひ こう き しんかんせん		後半期 (10月～3月)	2021.11.30	1ヶ園 1名
			2021.12.2	1ヶ園 1名
			2021.12.16	1ヶ園 1名
			2021.11.25	2ヶ園 2名
ひ こう き			2021.12.23	1ヶ園 1名
			2021.11.16	1ヶ園 1名
しんかんせん			2021.12.21	1ヶ園 1名
き し や		通年 (4月～3月)	2021.10.16	1ヶ園 1名
			2021.11.27	1ヶ園 1名

注) 複数回来所の園あり 表内は延べ園数

- ・各グループで見学会を行い、保育園 18ヶ園、幼稚園 4ヶ園、認定こども園 1ヶ園の参加があった。
- ・グループのとりくみ終了後、保護者、参加した園の先生、グループスタッフとで懇談する時間を設けた。

第3 医療事業

1 診療

小児科（常勤1名、非常勤2名）、整形外科（非常勤1名、週2回）、耳鼻咽喉科（非常勤1名、週1回）、精神科（非常勤1名、月1回）による診療を行っている。看護師は常勤2名、非常勤1名である。保健師は常勤1名で、ケースワーカー業務を行っている。

診療の中で発達相談事業の初診は週4日、他の曜日に発達相談の再診、通園児・保育園児の健診等を行っている。

検査としては、脳波検査または聴性脳幹反応は週1回、自覚的聴力検査週1回、他覚的聴力検査（ティンパノメトリー、DPOAE）週1回、X線検査は月2回実施している。

(1) 小児科

① 新規患者について

・ケースワーカーによる問診（合診は看護師かケースワーカー）、発達相談員による発達検査を経て、小児科医師による診察という経路が基本であったが、2017年度から早く療育につなげる必要があるケースについて、問診後、発達検査を省いて小児科医による診察につなげる1.2歳児受付初診を開始した。

1.2歳児初診後は、発達検査に先行して在宅児にはまず療育グループへの参加を勧め、後日、発達検査を実施、その後再診という経路で発達相談を行っている。

・新規患者数（表2-1）；昨年と比べ増加している。（422→470）

・障害種別状況（表2-5）；初診470人中、1.2歳児初診が258人（54%）あり、対象児は発達相談実施前のため、その種別を未決定に分類している。初診数から未決定数を除くと自閉症、自閉症+知的発達症の割合は40.5%、言語発達障害等の割合は15.3%であった。

②小児科発達外来再診（表3-1）

・昨年と比べて延べ人数（749→778）、実人数（613→654）ともに増えている。1.2歳児初診を経て、発達相談後の再診が増えているためと考えられる。

③小児科一般外来（表3-2）

・延べ人数（80→61）、実人数（44→28）ともに減少している。これは小児科、耳鼻咽喉科のかかりつけ医を持つことを推奨したこと、およびコロナ流行時、かぜ症状のある児は、そよ風の利用を控えていただいたことも影響していると思われる。

④長期投薬数（表3-3）

・小児期の神経発達症に伴う入眠困難に効果を持つ「メラトベル」が処方可能となり、処方した児を含め8→12となった。

⑤小児科定期診察

・通園児（表3-4）

昨年と比べて延べ人数は半減（80→38）、実人数はやや減少（27→20）している。

これは身体的に安定している児の再診回数を減らしたことによる。

・ひよこグループ・あいあい組（表3-5）

グループ所属の1人当たり年1回の定期診察を行った。

⑥早期療育会議

- ・ CW、看護師、PT、療育グループ職員により月 2 回開催。
合診を経過した児の状況を把握し、支援の方針（療育グループへの参加、訪問指導、制度利用等）を検討している。

⑦通園部の健康管理

- ・ 例年通り、健康学習会（家族向けに季節の病気、発達や障害などの学習）、毎日の健康チェック、重症児の医療的ケア、健康診断（年 2 回）、必要性のある児には定期診察、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科受診を勧める。

⑧健康会議

- ・ 診療部と通園部や療育グループで、子どもの健康の理解を進め、諸行事（宿泊療育など）のときの注意点、単独保育への移行や通園バス乗車の問題点などについて話し合い、意思統一している。

⑨その他

- ・ コロナ対策のため、利用者およびその家族周辺の健康状態を聞き取りしている。かぜ症状が強くみられる場合は利用を延期していただくこともあった。

表3-1 小児科発達外来再診

(2021年度、単位：件)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	3 (2)	3 (2)	3 (2)	4 (3)	2 (2)	3 (3)				18 (14)	2.3 (2.1)
	その他の症候群	3 (2)	4 (2)				1 (1)				8 (5)	1.0 (0.8)
	小頭症					1 (1)					1 (1)	0.1 (0.2)
	水頭症			3 (2)							3 (2)	0.4 (0.3)
	てんかん	1 (1)	1 (1)		1 (1)						3 (3)	0.4 (0.5)
	知的障害	5 (3)	17 (10)	13 (10)	14 (12)	15 (13)	18 (15)				82 (63)	10.5 (9.6)
自閉症	1 (1)	23 (17)	100 (80)	89 (69)	83 (72)	152 (133)	11 (10)				459 (382)	59.0 (58.4)
言語発達遅滞	1 (1)	23 (20)	36 (33)	13 (13)	4 (3)	11 (11)	1 (1)				89 (82)	11.4 (12.5)
構音障害			1 (1)		2 (2)	1 (1)					4 (4)	0.5 (0.6)
吃音				1 (1)							1 (1)	0.1 (0.2)
知的障害+脳性麻痺		1 (1)		1 (1)			3 (2)				5 (4)	0.6 (0.6)
脳性麻痺+知的障害					2 (2)	3 (3)	1 (1)		1 (1)		7 (7)	0.9 (1.1)
脳性麻痺	3 (1)	1 (1)	1 (1)				1 (1)				6 (4)	0.8 (0.6)
急性脳症後遺症			2 (1)								2 (1)	0.3 (0.2)
中枢性協調障害			1 (1)		6 (5)	9 (8)					16 (14)	2.1 (2.1)
運動発達遅滞	6 (5)	6 (5)	1 (1)		1 (1)						14 (12)	1.8 (1.8)
多動症			5 (5)	1 (1)	2 (2)	8 (7)					16 (15)	2.1 (2.3)
正常域						1 (1)					1 (1)	0.1 (0.2)
境界域		1 (1)	2 (1)	2 (2)	4 (4)	5 (3)	1 (1)				15 (12)	1.9 (1.8)
学習障害										3 (3)	3 (3)	0.4 (0.5)
整形外科疾患											0 (0)	0.0 (0.0)
筋ジストロフィー											0 (0)	0.0 (0.0)
その他	1 (1)	5 (4)	9 (9)	5 (5)	2 (2)	3 (3)					25 (24)	3.2 (3.7)
合計	24 (17)	85 (64)	177 (147)	131 (108)	124 (109)	218 (191)	15 (14)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	778 (654)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表3-2 小児科一般外来

(2021年度、単位:件)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群					1 (1)					1 (1)	1.6 (3.6)
	その他の症候群				1 (1)	1 (1)					2 (2)	3.3 (7.1)
	てんかん					1 (1)					1 (1)	1.6 (3.6)
	知的障害				2 (2)	3 (1)					5 (3)	8.2 (10.7)
	水頭症										0 (0)	0.0 (0.0)
自閉症		5 (1)		5 (2)	17 (5)	6 (4)	4 (1)	4 (1)		1 (1)	42 (15)	68.9 (53.6)
言語発達遅滞											0 (0)	0.0 (0.0)
知的障害+脳性麻痺										1 (1)	1 (1)	1.6 (3.6)
脳性麻痺+知的障害						1 (1)					1 (1)	1.6 (3.6)
脳性麻痺							2 (1)		2 (1)		4 (2)	6.6 (7.1)
脳炎後遺症											0 (0)	0.0 (0.0)
急性脳症後遺症											0 (0)	0.0 (0.0)
運動発達遅滞		1 (1)									1 (1)	3.6 (1.6)
多動症					3 (1)						3 (1)	4.9 (3.6)
正常											0 (0)	0.0 (0.0)
整形外科疾患											0 (0)	0.0 (0.0)
その他											0 (0)	0.0 (0.0)
合計	0 (0)	6 (2)	0 (0)	8 (5)	23 (7)	10 (8)	6 (2)	4 (1)	2 (1)	2 (2)	61 (28)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表3-3 長期投薬

(2021年度、単位：人)

診断名	学齢区分						計
	0～2歳	3～5歳	低学年	高学年	中学生	その他	
知的障害・自閉症		6	1	1			8
自閉症	1	2					3
A D H D		1					1
知的障害/知的障害・脳性麻痺							0
その他							0
合計	1	9	1	1	0	0	12

注) (1) 管理数の内訳は、継続5名、新規7名。次年度への継続児は4名。終了は6名（うち3名は転院）、中断2名。
 (2) 主訴は睡眠障害、多動である。

予防接種 (2021年度、単位：人)

ワクチン名	人数
麻疹・風疹	0
水痘	0
計	0

表3-4 小児科定期診察（通園児）

(2021年度、単位：件)

診断区分	就学前児童						計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
知的障害	ダウン症候群				2 (1)	3 (1)	5 (2)	13.2 (10.0)
	その他の症候群				2 (1)		2 (1)	5.3 (5.0)
	てんかん				1 (1)	3 (2)	4 (1)	13.2 (20.0)
	知的障害			3 (1)	5 (2)	1 (1)	9 (1)	28.9 (25.0)
	水頭症						0 (0)	0.0 (0.0)
脳性麻痺+知的障害					2 (1)	1 (1)	3 (2)	7.9 (10.0)
知的障害+脳性麻痺				1 (1)		1 (1)	2 (2)	5.3 (10.0)
自閉症					3 (1)	4 (2)	7 (3)	18.4 (15.0)
急性脳症後遺症					3 (1)		3 (1)	7.9 (5.0)
脳炎後遺症							0 (0)	0.0 (0.0)
整形外科疾患							0 (0)	0.0 (0.0)
筋ジストロフィー							0 (0)	0.0 (0.0)
合計	0 (0)	0 (0)	3 (1)	9 (5)	14 (7)	12 (7)	38 (20)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

*障害種別では「重心」となる児が7名である。

*区分上は自閉症や知的障害となっているが、その他症候群・てんかん・サイトメガロウイルス感染症・視力障害・高度難聴・先天性心奇形・運動発達遅滞などの疾患を重複している児が含まれている。

表3-5 小児科定期診察（療育グループ等）

（2021年度、単位：件）

グループ名	就 学 前 児 童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
たまご教室	4 (4)	3 (3)					7 (7)
ひよこ・うさぎG	3 (1)	8 (7)	7 (5)	2 (1)	1 (1)		21 (15)
あいあい組			3 (2)				3 (2)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は学年齢である。

*登録数は、たまご教室8名、ひよこうさぎグループ15名、あいあい組4名だった。

*定期診察は、小児科再診と兼ねて実施した。

(2) 整形外科

- ・新規受診者数40名。
- ・再診の中断者には、PTと連携を取って定期診察に繋がったり、電話フォローを行い受診に繋がったが、昨年と比し、30件以上減。
- ・整形外科の実人数は198名、装具外来受診者数のべ274名、定期診察受診者数のべ219名で微減少。
- ・通園児の受診数は、56名中27名であった。
- ・今年度、終了数18名（高校卒業児、転院、ボイタの為中央への移行、歩行安定）、PTオーダーは26名（合診から20名、経過フォロー児から6名）、OTオーダーは3名であった。
- ・昨年と同様に靴、椅子、バギーの貸し出しが多くあった。対象となったのは、通園に入園後早急に装具が必要となった児や成長に伴いサイズが合わなくなった児、低年齢で身障手帳取得前だがグループで椅子が必要な児であった。貸し出しで使ってみてからの作成としている。
- ・訪問管理児へも、椅子、バギーの貸し出しを行い、状況をみて作成につないだ。

表3-6 整形外科診断区分別状況（新規）

（2021年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害												0	0.0
ダウン症候群	2	3	1									6	15.0
脳性麻痺			2	1								3	7.5
脳性運動障害	1											1	2.5
運動発達遅滞	1	20										21	52.5
神経・筋疾患												0	0.0
骨・関節疾患												0	0.0
後天性要因による運動障害		1										1	2.5
二分脊椎												0	0.0
その他の先天性障害	1	1		1								3	7.5
そ の 他	1	3		1								5	12.5
合 計	6	28	3	3	0	0	0	0	0	0	0	40	100

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群等を含む。

(3) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。

(4) 運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

表3-7 整形外科診断区分別状況（装具外来）

（2021年度、単位：件）

区 分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害		2	1				2	1		2	8	2.9
ダウン症候群			6	6	4	11	7	7	12		53	19.3
脳性麻痺	3		3	8	3	16	24	15	12	6	90	32.8
脳性運動障害			2		6	13	5	1			27	9.9
運動発達遅滞	3	2	4		5	6					20	7.3
神経・筋疾患									2		2	0.7
骨・関節疾患				1							1	0.4
後天性要因による運動障害							1				1	0.4
二分脊椎											0	0.0
その他の先天性障害			8	2		3	11	1	3	5	33	12.0
そ の 他		4	3	7	13	9	2	1			39	14.2
合 計	6	8	27	24	31	58	52	26	29	13	274	100

注）（1）年齢は学年齢である。

（2）その他の先天性障害には、染色体異常・症候群・心疾患等を含む。

（3）その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。

（4）運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

表3-8 整形外科診断区分別状況（定期診察）

（2021年度、単位：件）

区 分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害		3	2	1			1			1	8	3.7
ダウン症候群	4	7	8	7	5	3	5	1	4		44	20.1
脳性麻痺	3	4	5	3		6	17	9	7	13	67	30.6
脳性運動障害	3		2	1	1	5					12	5.5
運動発達遅滞	10	18	10		1						39	17.8
神経・筋疾患											0	0.0
骨・関節疾患				2							2	0.9
後天性要因による運動障害	2		1								3	1.4
二分脊椎											0	0.0
その他の先天性障害		3		3			1		2	1	10	4.6
そ の 他		15	5	6	1	3	2	2			34	15.5
合 計	22	50	33	23	8	17	26	12	13	15	219	100

注）（1）年齢は学年齢である。

（2）その他の先天性障害には、染色体異常・症候群等を含む。

（3）その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。

（4）運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

(3) 耳鼻咽喉科

- ・当センターの耳鼻咽喉科診療目的は、疾患の早期発見・早期治療、聴覚の管理である。
- ・今年度当科を受診した患児の総数は188名であった。終了97名、そのうち新規での終了は59名であった。
- ・新規、継続共に、前年比微増である。
舌小帯短縮症、外耳炎で他院へ紹介したケースが2件あった。
新規における言語発達遅滞の占める割合が88%、構音障害8.4%といずれも増加している。
- ・正しい聴覚検査の結果を得るには、耳垢除去も必要である。2020年度より、複数該当の場合は、主となる診断を一つ選択したが、複数カウントすると耳垢除去は新規では+66件、継続では+55件あった。
- ・通園児の受診数は、56名中12名であった。
- ・聴検を実施したが、良好な検査結果が得られず、且つ、ティンパノメトリー、OAE共に実施できなかった児に対して ABRまたは3歳児健診前後の再検を行うようにしている。

表3-9 耳鼻咽喉科診断区分別状況（新規）

（2021年度、単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴の疑い		1				1	1					3	2.5
難聴												0	0.0
滲出性中耳炎												0	0.0
耳垢塞栓	1											1	0.8
言語発達遅滞		19	69	16	3							107	88.4
粘膜下口蓋裂												0	0.0
構音障害				3	4	3						10	8.3
正常												0	0.0
その他・その他の耳鼻科疾患												0	0.0
計	1	20	69	19	7	4	1	0	0	0	0	121	100

注) 年齢は満年齢である。

表3-10 耳鼻咽喉科診断区分別状況（継続）

（2021年度、単位：件）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
難聴の疑い						1				1	2	1.6
難聴					2	1					3	2.3
滲出性中耳炎											0	0.0
耳垢塞栓	1	3	4	3	4	7	7	1	4	2	36	28.1
言語発達遅滞		6	14	6	3	2					31	24.2
鼻咽腔疾患											0	0.0
構音障害				1		1					2	1.6
アレルギー性鼻炎					5	2		7	3	24	41	32.0
その他・その他の耳鼻科疾患		2	1		1	4	1	1		3	13	10.2
計	1	11	19	10	15	18	8	9	7	30	128	100
実人数	1	7	18	8	8	11	5	4	3	4	69	

注) 年齢は学年齢である。

*その他・その他の耳鼻科疾患として、正常・外耳道炎・外耳湿疹・睡眠時無呼吸症候群疑・チュービングチェック・急性鼻咽頭炎があった。

表3-11 聴力検査

（2021年度、単位：件）

区分		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年				高学年
自覚的 聴力検査	BOA	1		2				1				4	
	COR		20	69	23	5	1	1	2			121	
	Peep-Show			3	12	5	8	2		1		31	
	標準純音聴力検査								1		1	2	
	プレイオーディオ											0	
合計		1	20	74	35	10	9	4	3	0	1	1	158

注) 年齢は満年齢である。

区分		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年				高学年
他覚的 聴力検査	ティンパトリー	1	16	58	29	8	9	3	2		1	1	128
	DPOAE	1	5	28	13	5	6	2					60

注) 年齢は満年齢である。

検査名		就学前児童					小学生		他	計	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年			高学年
A B R			1		1	1	4				7

注) 年齢は学年齢である。

(4) 精神科

- ・新規はなく、継続8名であった。養育者のアセスメント及び支援、児と養育者への精神療法、投薬治療が中心である。
- ・受診の際は、養育者に毎回予診を行い、児に対しては、毎回身体測定を行っている。また、血液検査などで、薬物療法児への副作用チェックを適宜行っている。副作用チェックでECGを1人実施した。
- ・終了はなく、8名とも次年度へ継続。

表3-12 精神科診断区分状況（新規）

（2021年度、単位：人）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)											0
自閉症(精神遅滞)											0
A D H D											0
精神遅滞											0
その他											0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 年齢は学年齢である。

表3-13 精神科診断区分状況（継続）

（2021年度、単位：人）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)					1						1
自閉症(精神遅滞)							3	2		1	6
A D H D											0
精神遅滞						1					1
その他											0
合計	0	0	0	0	1	1	3	2	0	1	8

注) 年齢は学年齢である。

表3-14 精神科診断区分別状況（延べ人数）

（2021年度、単位：件）

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)						6					6
自閉症(精神遅滞)							30	10		5	45
A D H D											0
精神遅滞						11					11
その他											0
合計	0	0	0	0	0	17	30	10	0	5	62

注) 年齢は学年齢である。

(5) 検査

表3-15 脳波、ABR、心電図

(2021年度、単位：件)

検査名	就学前児童						小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年		
A B R		1		1	1	4				7
脳波							1			1
心電図							1			1

注) 年齢は学年齢である。

表3-16 エックス線写真部位

(2021年度、単位：件)

部位	就学前児童							小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
足部				3	1							4
脊柱						2		3	5	3	1	14
股関節		2	7	5	5	3		6	3	3		34
下肢												0
膝						1						1
手根骨												0
肘												0
頸椎							1					1
アデノイド												0
その他								1				1
計	0	2	7	8	6	6	1	10	8	6	1	55

注) 年齢は満年齢である。

実人数	年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	中学生	他	計
	人数		0	2	7	6	5	3	1	7	5	4	1

(6) 診断書等発行

表3-17 診断書等発行状況

(2021年度、単位：件)

診断書等	小児科	整形外科	耳鼻科	精神科
特別児童扶養手当診断書	49	5		
障害児福祉手当診断書	1	3		
身体障害者手帳診断書		12		
精神保健福祉手帳診断書				
補装具意見書		41		
補装具交付証明書		53		
障害証明書				
初診日に関する証明書	8			
私立幼稚園特別支援教育費も関わる診断書	29			
その他診断書	38	4		
紹介状・回答書	310	6	2	
おむつ意見書		4		
児童福祉法意見書	170			
計	605	128	2	0

2 訓 練

当センターでは、訓練部門として、個別訓練、生活支援事業（摂食・嚥下機能訓練、通園・療育グループでの摂食指導・療育連携、学校連携）、保護者向け学習会、巡回療育指導、訪問療育指導、関連診療科との協力等の業務を行った。コロナの感染拡大の状況があり、訓練実施数は例年より減少した。

(1) 理学療法 (PT)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、理学療法士常勤 2 名・非常勤 1 名（4 月～9 月）が、施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 児童の全身状態や障害状況、運動状況に合わせ、ボイタ法を含めた運動療法や呼吸理学療法を行っている。
- ・ 児童の家庭や保育園での生活を把握しながら、療育的な視点から生活面における指導・援助を行い、訓練・治療内容が児童・家族の日常生活の改善や向上につながるよう努めている。
- ・ 2021 年度の新規児童は、31 名であった。診断名別に見ると運動発達遅滞が全体の 41.9% で最も多かった（表 3 - 18）。
- ・ 音楽療法を受けている児童によっては、共同で実施することもあった。理学療法だけでは運動意欲に繋がりにくい児童に対しては、音楽を介したアプローチは有効であった。
- ・ 訪問看護や訪問リハビリを受けている児童について、関連機関からの見学があり、当センターでのリハビリ状況や訪問看護・訪問リハの状況の情報共有を行った。
- ・ 座位が不安定な児童に対し、椅子・姿勢保持具等の作製を行った。
- ・ 2021 年度末の時点で医療ケアを必要とする児童は全体で 24 名であった。内訳は、気管切開 5 名、酸素吸入 3 名、エアウェイ 1 名、胃ろう 8 名、腸ろう 1 名、経管栄養 8 名、中心静脈栄養 1 名、ストマ 1 名であった。このうち、複数のケアが必要な児童は 6 名であった。
- ・ 訓練対象児 111 名のうち、通園児は 23 名であった（内待機児童 3 名、あつた 3 名）。
- ・ 2 名に対して、巡回療育指導を看護師とともに行った。

表3-18 PT診断別状況（新規）

（2021年度、単位：人）

主診断名	就学前児童								小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 6ヶ月 未満	0歳 6ヶ月 以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学 年	高学 年				
脳性麻痺		1 (0)		1 (0)									2 (0)	6.5
その他の運動障害 (症候群含む)			2 (0)	2 (0)	1 (0)								5 (0)	16.1
後天性要因による 運動障害													0 (0)	0.0
ダウン症候群	1 (1)	2 (0)	1 (0)	1 (0)				1 (0)					6 (1)	19.4
その他の染色体異常			1 (1)										1 (1)	3.2
運動発達遅滞			12 (2)	1 (0)									13 (2)	41.9
知的障害に伴う 運動発達遅滞			2 (0)										2 (0)	6.5
神経・筋疾患													0 (0)	0.0
二分脊椎													0 (0)	0.0
発達障害			1 (0)	1 (0)									2 (0)	6.5
骨・関節疾患													0 (0)	0.0
その他													0 (0)	0.0
計	1 (1)	3 (0)	19 (3)	6 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (4)	
%	3.2	9.7	61.3	19.4	3.2	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) 診断名は2022年3月末時点での診断名である。

(3) 再度、処遇を受けた児童も含む。

(4) ()内は、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある児童数をあげた。

表3-19 PT診断別状況（新規+継続）

（2021年度、単位：人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 2021年度 生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺		2 (0)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (0)	4 (2)	11 (5)	4 (3)	9 (3)	39 (15)	35.1
その他の運動障害 (症候群含む)		2 (0)	2 (0)	5 (0)	3 (1)		3 (0)	5 (1)				20 (2)	18.0
後天性要因による 運動障害						1 (0)	1 (0)			1 (0)		3 (0)	2.7
ダウン症候群	2 (0)	2 (1)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)		1 (0)			15 (1)	13.5
その他の染色体異常		1 (1)		3 (1)				2 (2)	1 (1)	1 (1)		8 (6)	7.2
運動発達遅滞		7 (2)	9 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)						19 (3)	17.1
知的障害に伴う 運動発達遅滞		2 (0)			2 (0)	1 (0)						5 (0)	4.5
神経・筋疾患												0 (0)	0.0
二分脊椎												0 (0)	0.0
発達障害			1 (0)	1 (0)								2 (0)	1.8
骨・関節疾患												0 (0)	0.0
その他												0 (0)	0.0
計	2 (0)	16 (4)	17 (1)	15 (1)	8 (1)	6 (2)	8 (0)	11 (5)	13 (6)	6 (4)	9 (3)	111 (27)	
%	1.8	14.4	15.3	13.5	7.2	5.4	7.2	9.9	11.7	5.4	8.1		100

注) (1) 2021年度内に管理をした全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。

(2) 年齢は、学年齢である。「0歳、2021年度生まれ」は、2021年4月2日以降生まれの児童である。

(3) 診断名は、2022年3月末時点（終了児はその時点）の診断名である。

(4) () 内は、2022年3月末（終了児はその時点）の状態で移動不可～寝返りの段階にある児童をあげた。

表3-20 PT終了等の状況

（2021年度、単位：人）

区分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	11	0	4	4	0	0	2	21

表3-21 PT月別状況

(2021年度、単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	80	78	71	95	76	74	73	75	70	69	67	83		75.9
延人数	166	146	164	175	160	145	159	156	144	100	130	158	1,803	150.3
月管理数	83	84	87	93	94	93	88	89	88	91	94	98		

注) (1) 1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均2.0回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は1.7回であった。

(3) 実際の訓練回数は、週1回～月1回程度である。

(2) 作業療法 (OT)

- ・個別訓練は医師の指導監督の下、作業療法士2名が施設基準の障害児(者)リハビリテーションに基づいて行った。
- ・行っている治療内容は、脳性麻痺児やその他の疾患による肢体不自由児に対する機能訓練と、発達障害等の児に対する評価や治療・指導などである。
- ・発達障害等の児に対する治療や指導は主に感覚統合療法を用いて行った。
- ・観察評価に加え、目的に応じJMAP、臨床観察、JSI-Rを用いた。
- ・処方は年間80名出され新規児童は80名であった。待機期間を短縮するため10回クール制を継続し、受け入れ枠も増やし対応した。5,6月で5か月待ちの状態があり、3月末時点で未開始の児童は27名であった。7月以降は2～3か月待ちで、例年よりも待機期間が短い傾向があった。
- ・新規児童は、ASDの児童が全体の46.3%を占めた。年齢は、年長児28名35%、年中児37名46.3%、年少児9名11.3%であった。発達性協調運動障害の児童が増加した(21名、26.3%)。
- ・9月以降に処方(開始11月以降)が出た年長児童が6名いた。必要な訓練回数を確保できるよう優先的に予約を入れるなど行った。保護者と子どもを捉えることはできたが、訓練回数の確保が難しく、就学に向けた準備としては不十分な状況で終えることとなった。
- ・整形外科からの処方は3名であった(小児科から整形外科への処方変更1名を含む)。
- ・10回クール制での要点を絞った目標設定で目標を達成し終了出来た児もいたが、状況に合わせて訓練内容、訓練回数を変更し対応する事が必要な児もいた。
- ・訓練対象児156名のうち、通園児は12名であった(そよ風10名、あつた2名)。
- ・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表3-22 OT診断別状況(新規)

(2021年度、単位:人)

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺			1	1		2						4	5.0
後天性要因による運動障害												0	0.0
二分脊椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダウン症候群												0	0.0
その他の運動障害(症候群を含む)				1		1						2	2.5
知的障害	不器用を伴う				2	1						3	3.8
	多動を伴う											0	0.0
境界域					2	1						3	3.8
A D H D				1	2	5						8	10.0
L D												0	0.0
A S D	知的障害を伴う			2	7	4						13	16.3
	知的障害を伴わない			1	7	14	2					24	30.0
発達性協調運動障害			1	2	7	9	2					21	26.3
その他					1	1						2	2.5
計	0	0	2	8	28	38	4	0	0	0	0	80	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含まれている。

表3-23 OT診断別状況(新規+継続)

(2021年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺		1	1			7	2	1	2	1	15	9.6
後天性要因による運動障害					1	1			1		3	1.9
二分脊椎											0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺											0	0.0
ダウン症候群											0	0.0
その他の運動障害(症候群を含む)			1			1	1				3	1.9
知的障害	不器用を伴う			1	1	3					5	3.2
	多動を伴う										0	0.0
境界域					2	2					4	2.6
A D H D					4	7					11	7.1
L D											0	0.0
ASD	知的障害を伴う		1	3	11	15					30	19.2
	知的障害を伴わない			1	17	36					54	34.6
発達性協調運動障害			1	3	14	11					29	18.6
その他				1		1					2	1.3
計	0	1	4	9	50	84	3	1	3	1	156	100

- 注) (1) 2021年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。
(2) 年齢は、学年齢である。
(3) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含まれている。
(4) 境界域のものは不器用をあわせもっていた。

表3-24 OT終了等の状況

(2021年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	就学	高校卒業	中絶	その他	計
人数	41	0	6	4	27	0	8	0	86

表3-25 OT月別状況

(2021年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	68	77	81	85	83	87	95	99	99	83	76	84		84.8
延人数	102	111	113	122	114	125	125	126	135	84	100	117	1,374	114.5
月管理数	85	92	99	103	108	112	119	126	129	118	118	103		

- 注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.4回であった。
(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.0回であった。

(3) 言語聴覚療法 (ST)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、言語聴覚士 2 名（常勤 1 名、非常勤 1 名）が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 対象は、主に言語・コミュニケーションに何らかの困難をもつ児童である。
- ・ 評価には、国リハ式< S-S 法 > 言語発達遅滞検査、質問 - 応答関係検査、新版構音検査、ITPA（イリノイ式言語学習能力診断検査）、PVT-R（絵画語い発達検査）、LC スケール、随意運動検査等を用いた。
- ・ 処方は年間 101 名（昨年度 125 名）出され、新規児童は 121 名（昨年度 112 名）であった。児童総数は 186 名（昨年度 168 名）であった。
- ・ 新規児童は年長児の割合が高く、全体の 49.6%であった。年中児は 37.2%であった。
- ・ 新規診断別状況では ASD の児童が 58.7%であった。
- ・ 評価のみで終了した児童が 13 名と例年より多かった。
- ・ 訓練開始の待機状況は、年度開始時点で前年度からの待機が 49 名、3 月末時点で未開始の児童は 16 名であった。
- ・ 10 回クール制を継続した。児の状況に応じて訓練頻度や回数を調整した。回数を区切ることによって目標やその到達について保護者と確認しやすくなったこと、4,5 月に新患枠を増やして対応したこと、毎月の新患枠を定数確保できたことにより、年度末にかけて未開始期間は短縮した。2021 年度の待ち期間は最大 3.5 ヶ月であった。
- ・ LD 疑いの数は 0 だが、読み書きの習得に極端に時間がかかる児童は 10 名程度いた。ASD、ADHD、言語発達遅滞、構音障害の診断の児に含まれる。
- ・ 訓練対象児 186 名のうち、通園児は 13 名だった（そよ風 7 名、あつた 6 名）。
- ・ 児童の状況に合わせて言語・コミュニケーション指導を個別に行った他、4～9 月に年長女児 3 名、10～3 月に年長男児 4 名を対象に、月 1 回のグループ訓練を行い、コミュニケーションの相互性やルールに則した言動の獲得を目指した。
- ・ 言語聴覚士 2 名は、週 1 回耳鼻咽喉科の各種聴力検査（BOA・COR・peep-show・プレイオージオ・純音聴力検査・ティンパノメトリ・DPOAE）を担当した。
- ・ 巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表3-26 ST診断別状況(新規)

(2021年度、単位:人)

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺												0	0.0
知的障害				1	3	3	2					9	7.4
境界域						4	1					5	4.1
ASD	知的な遅れを伴う		1	2	3	16	3					25	20.7
	知的な遅れを伴わない				10	30	6					46	38.0
LD												0	0.0
ADHD				1	2	5	1					9	7.4
言語発達遅滞				1	1	2						4	3.3
ダウン症候群				1	1	1						3	2.5
構音障害				2	4	10	1					17	14.0
吃音					2							2	1.7
難聴												0	0.0
場面緘黙												0	0.0
その他				1								1	0.8
計	0	0	1	9	26	71	14	0	0	0	0	121	100

注) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表3-27 ST診断別状況(新規+継続)

(2021年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺							3				3	1.6
知的障害			1	1	4	5					11	5.9
境界域					2	6					8	4.3
ASD	知的な遅れを伴う		1	3	14	29					47	25.3
	知的な遅れを伴わない			3	19	38					60	32.3
LD											0	0.0
ADHD			1	1	3	5					10	5.4
言語発達遅滞			1	1	1	6					9	4.8
ダウン症候群				1	3	3					7	3.8
構音障害			1	1	8	15					25	13.4
吃音				1	1	1					3	1.6
難聴						1					1	0.5
場面緘黙											0	0.0
その他				1	1						2	1.1
計	0	0	5	13	56	109	3	0	0	0	186	100

注) (1) 2021年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 構音障害・吃音に分類した児童の内、20%はASD、8%はADHD、20%は言語発達遅滞の診断を受けた児童である。

表3-28 ST終了等の状況

(2021年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	64	13	0	3	0	6	39	0	125

表3-29 ST月別状況

(2021年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	74	81	83	91	97	98	101	111	116	80	90	106		94.0
延人数	105	116	122	124	132	135	138	152	147	87	113	135	1,506	125.5
月管理数	86	93	100	105	115	121	127	134	138	128	128	112		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.3回であった。

(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.1回であった。

(4) 生活支援

① 摂食・嚥下機能訓練

- ・麻痺等の運動障害に起因する摂食・嚥下障害のある子どもや、運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども、偏食によって離乳食が進まない子ども、およびその保護者を対象に、リハビリスタッフ5名（PT・OT・ST）と栄養士1名の計6名で評価・指導を行った。
- ・評価・指導は、③通園・療育グループでの給食、⑥摂食訓練会・個別訓練の場において行った。

③通園・療育グループでの給食

- ・通園においては、リハビリスタッフ5名が各クラスの給食に入り、評価・指導を行った。今年度は通園児56名中9名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。
- ・療育グループにおいては、ひよこさぎグループにリハビリスタッフが入り、全体の様子をみながら必要児にはポイント指導・助言を行った。さらに細かな評価・指導が必要な児童に対しては、摂食訓練会につないだ。

表3-30 給食指導対象児の年齢別状況

(2021年度、単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
通園				2	5	2	9
あいあい組							0
計	0	0	0	2	5	2	9

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) スクリーニング的な評価を行った児童は含まない。

表3-31 給食指導の月別状況

(2021年度、単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通園	11	9	18	13	4		17	18	16	1			107
あいあい組													0

注) (1) 個人への給食指導を基本とし、クラス全体への指導も1件としてカウントした。

(2) 4・5月は、通園及びあいあい組の全体的評価を中心に実施した。

(3) 緊急事態宣言を含め、コロナ対策のため給食指導を制限または中止した月があった。

⑥摂食訓練会

- ・月2回、年間20回の摂食訓練会を設定したが、感染対策のため1回につき定員3名に限定して行った。
- ・0～5歳の児童13名に対し、個別に評価・指導を行った。
- ・新患は12名であった。訓練頻度は、1～3回/年や月1回である。
- ・偏食により離乳食が進まない児童が7名おり、生活やあそびの工夫やメニュー・調理の工夫を伝える指導を行った。
- ・1名に対しては個別訓練の枠の中で、評価・指導を実施した。

表3-32 摂食訓練会実施児の診断別状況 (2021年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						学 齢	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
脳 性 麻 痺								0	0
後天性要因による運動障害			1					1	7.6
ダ ウ ン 症 候 群	2 (1)							2 (1)	15.0
その他の染色体異常								0	0
その他の運動障害		2	1					3	23.0
知的障害に伴う運動発達遅滞								0	0
発 達 障 害								0	0
運 動 発 達 遅 滞	2	3	1					7	53.8
計	4 (1)	5	3	0	0	1	0	13 (1)	100

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) () 内はその児童のうち、DQ20以下で未定額の児童数をあげた。

表3-33 摂食訓練会月別実施状況 (2021年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実 人 数		2		3	1	5	2	3	2	5	2	5	30
延 人 数		2		3	2	5	2	3	2	5	2	5	31

表3-34 個別枠における摂食訓練月別実施状況 (2021年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実 人 数												1	1
延 人 数												1	1

② 通園療育連携

- ・ PT・OT・ST 各 2 名が、それぞれ月 1 回、通園部の子どもの評価や職員の関わり方について、各クラスからの相談内容に助言する形で連携を行った。
- ・ 各クラスが希望する時間帯に入る方法を基本としたが、コロナ対策により直接介入が難しい期間は、職員同士で検討を行った。
- ・ 新規職員向けに PT・OT・ST がそれぞれ研修を行った。

③ 学校連携

- ・ 学校生活を支援する目的で港特別支援学校と連携をとった。
- ・ 学校との連携で得た情報は、個別訓練を実施する上でも貴重であった。
- ・ 学校側からのニーズは高かったため、コロナ対策をしながら可能な限り対応した。
- ・ 連携は、④ケース会、⑥個別訓練見学において行った。

④ ケース会

- ・ 6月と10月の2回を予定していたが、感染防止の観点から10月のみの開催となった。
- ・ 対象は、小学部1年生（4名）であった。
- ・ PT・OT・ST が学校へ訪問した。
- ・ 動画を用いて、担当教員と授業の中で可能な取り組みの検討を行った。
- ・ 対象以外の学年の担当教員からも要望があったため、保護者を介し書面にて情報共有を行った。

⑥ 個別訓練見学

- ・ 例年実施する夏休みの個別訓練見学は、感染防止の観点から中止とした。
- ・ 個別訓練見学の代替策として、動画や写真を用いて保護者を介した情報交換や、電話での相談を行った。

(5) 保護者向け学習会

表 3 - 35 保護者向け学習会実施状況

実施日	内 容	対 象	参加人数	担 当
6月11日	食べるということとは	ひよこグループ	1名	PT
2月15日	手先の活動に必要なこと	並行グループ (しんかんせん)	5名	OT
2月22日	就学に向けてつきたいコミュニケーションの力	並行グループ (へりこぶたー)	4名	ST
3月4日	「感覚統合」について 「日常生活動作」について（オンライン開催）	通園にじ、たんぼぼ	6名	OT
3月10日	コミュニケーションとことばについて（オンライン開催）	通園つばめ、つくしんぼ	9名	ST

(6) 音楽療法 (MT)

- ・個別音楽療法を、週1回(木曜日)に音楽療法士1名が実施した。
- ・興味を広げることや他者を意識し、三項関係を築くことを目的に実施した。
- ・対象は、ASDが60%と最も多かった。
- ・新規児童は5名であった。
- ・対象と目的により、母親も一緒に参加するプログラムを行った。
- ・PT訓練を受けている児童によっては、担当者と共同で実施することもあった。

表3-36 MT診断別状況

(2021年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年					
ASD	知的障害を伴う			2		3	2					7	46.7
	知的障害を伴わない			1			1					2	13.3
脳性麻痺							1					1	6.7
知的障害					1							1	6.7
その他			1	1		2						4	26.7
計	0	0	4	1	4	5	1	0	0	0	15	100	

注) 年齢は、学年齢である。

表3-37 MT月別状況

(2021年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	8	9	7	8	6	6	6	5	9	9	8	9		7.5
延人数	11	13	12	14	9	10	9	6	14	10	8	12	128	10.7

注) 1人あたりの訓練は、月平均1.4回であった。

第4 通園事業

1 施設概要

(1) 定 員 56名

(2) 対 象 児 童

0歳から就学前の、障害・発達のおくれを発見された子ども、又はその疑いのある子ども。

(3) クラス編成 原則として生活年齢を基準に編成する。

(4) 通園形態 親子通園及び単独通園の2形態とする。

(5) 親子通園の種類

① 新規親子通園

新入園児を対象として、4月は週3登園、5月は週4登園を行う。

② 定例親子通園

全園児を対象として、毎週水曜日に行う。

(6) 通園バス

- ・通園のための送迎車を4台運行する（ワゴン車3台・マイクロバス1台）
- ・自家用車がない等の理由で親子登園が困難な親子を対象に、新規親子登園及び定例親子登園日に通園バスでの送迎を行う。

2 療育内容

(1) 子ども像

子ども像とは「こんな子どもに育ててほしい」という私たち保育者のねがいである。

障害をもっている、ひとりの人間として、障害をのりこえ、たくましく、ゆたかに成長発達してほしい。「かわいがられる障害者」ではなく「自立（律）した障害者」になってほしいというねがいをもち、以下の子ども像をたてた。

- ・いのちを守り、いのちをつよくなる子ども
- ・ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
- ・どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
- ・人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
- ・人とともに育ちあえる子ども

(2) 療育の視点

社会情勢を見つめて

- ・現代の子育ての状況や社会福祉の動向などから地域の社会の実態をとらえ、子どもの発達を保障できる療育づくりをすすめる。
- ・日本国憲法や子どもの権利条約に学び、子ども一人ひとりの人権を守り、平和の大切さを伝える療育実践をすすめる。

一人ひとりの発達を支援する

- ・一人ひとりの子どもの発達や障害、これまでの育ちをまるごととらえ、発達課題を明らかにしながら、どの子も集団の中でいきいきとあそぶことができる療育づくりをすすめる。
- ・一人ひとりが自分を大切にされる経験を通して、どんな命も尊く、かけがえのないものであることを療育を通して伝える。
- ・食を通じて(さまざまな形態を意味する)、健康な身体をつくる。また、食育の視点を大切に、日々の食事を家族と共に豊かにする。
- ・子どもたちが、身近な自然や文化に触れながら生活経験を広げることを大切にする。また保育者がさまざまなあそびの文化を学び、子どもがドキドキワクワクと心動かすあそびづくりを追求する。
- ・大人との安心できる関係のもと、もっとあそびたい、できてうれしいなど、子どもの要求を広げ、人と共感しあえる関係づくりをしていく。
- ・一人ひとりのよさや、いろんなことに挑戦する中で達成感を積み上げ、集団の中で認められ、自己肯定感が育てられる集団づくりをすすめる。

家族とともに

- ・子どもを真ん中にして、家族の思いや願いを共有しながら、家族が元気に子育てに向かえる支援をすすめる。
- ・日々の子育てを担う母親が、子どもの理解を深めながら基本的な子育てを学び、楽しく子育てできるように支援する。
- ・母親同士が思いを出し合い、子育てへの思いや悩みに共感し、互いに育ちあえる母親集団づくりをする。
- ・父親、兄弟の交流を通して、仲間づくりをすすめる。

(3) 療育計画

① クラス編成・登園日

(2021 年度)

クラス名	人数	年 齢	担任	登園日・登園時間
つばめ組 (進級児クラス)	8	5歳児 8	3	・進級児 月・火・木・金(単独通園) 10:00～15:00 水(定例親子通園) 10:00～13:00 ・新入児 4月…週3日新規親子通園 10:00～13:00 5月…週4日新規親子通園 10:00～13:00 6月…単独・週5日通園へ移行 (進級児と同様) ※新型コロナウイルス感染症対策のため、新入児の新規親子登園は、クラスを半分に分けて人数を減らして行った。
そら組 (進級児クラス)	7	5歳児 5 4歳児 2	3	
にじ組 (進級児・新入児クラス)	9	5歳児 6 4歳児 3	4	
ちょうちょ組 (進級児・新入児クラス)	7	4歳児 2 3歳児 5	3	
めだか組 (進級児・新入児クラス)	9	4歳児 8 3歳児 1	3	
たんぼぼ組 (新入児クラス)	8	3歳児 8	3	
つくしんぼ組 (新入児クラス)	7	3歳児 6 2歳児 2	3	

② 日 課

時間	単 独 通 園 日	親 子 通 園 日
9:00	通園バス	親子バス
9:45	直接登園の子 登園	
10:00	通園バス到着 健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ	直接登園 健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ
11:00	給食準備 給食	給食準備 給食
12:00	歯みがき・たんれん・着替え 絵本の読み聞かせ	歯みがき・たんれん
13:00	午睡	さよならのつどい 降園
14:00		
15:00	着替え、水分補給 さよならのつどい 降園 通園バス、見守り一時支援(～17:30)	※生活づくり習間 7/6～8/27 登園時間を30分繰り上げ9:30登園、 15:00降園にした。

③ 定例親子登園日（水曜日）の内容

親子あそび クラス毎で、親子で楽しくあそんだり、親子での経験を広げる（2～3回/月）※コロナにより、4、10、11、12月のみ実施。

親子プール クラス毎に園内の温水プールに入る（1回/3ヶ月）
※12月より、プールの改修により実施しなかった。

母親研修 近藤直子氏の研修を全保護者を対象に行う。ST、OTより子ども理解を深める研修を行う。年長年中児保護者に就学懇談会、希望する方に就園懇談を行う。また、職員のおすすめ絵本を紹介するパンフレットを作成し配布した。

親の会 年間4回の役員会、3回の親の会（ZOOM＋集合2回、文章提案1回）を実施する。

④ クラスを越えた保育

年長保育…19名の年長児に、4月から1年間通して年長保育を行った。野菜の栽培や単独宿泊をとりくんだ。保護者は親子宿泊、サポートブック作成のとりくみを行った。

⑤ 給食の状況

形 態	人 員
普通食	40
完了～移行食	4
側方への咀嚼～歯茎たべ	2
舌つぶし～側方への保持	3
ペースト～マッシュ	6
経管栄養（鼻注・胃ろう・他）	0
アレルギー	4
禁忌食材への対応	0

・調理の工夫

手づかみをする/すくう/さす/しっかり噛む…をするために

- ・一つ一つの食材の目標をはっきりさせることにより、手づかみ、すくう、さすをしやすくする。
- ・食材を大きめに切り、噛み切る、噛みちぎる、噛むなどをし、一口量のコントロールをしやすくする。
- ・移行食という考え方ではなく、乳児食として普通食との間を埋める調理法を取り入れる。

食べやすくするために

- ・ゼリー食（ソフト食）にする。
- ・トロミを使い飲み込みやすくする。（水分補給・餡の利用）
- ・子どもの状況に合わせ、固さや調理法、食材を変える。

- ・手づかみしやすい大きさや固さにする。
- ・刺しやすい固さ、すくいやすい大きさにする。
- ・水分、栄養を摂るために、体調に合わせ調理形態の変更及び、高栄養剤の注入等、臨機応変な対応をし、一定量の確保をする。

・食器の工夫

ノンスリップマット、吸盤、食器の重さ、深さなど子どもが使いやすいものに変える。
スプーン、フォークのグリップや柄、角度を子どもが使いやすいものに変える。
コップの高さ、持ち手、ボトル、チューブ、ストローなど子どもに応じて水分補給のしやすいものに変える。
『自分で』『目的をはっきりさせる』など、子どもが意欲的に向かいやすいように（取り皿／深さ／重さ／形など）工夫する。

・給食指導の状況

子ども一通園の給食に栄養士・訓練士（PT2名、OT2名、ST1名）・調理師が入り、保育者と共に以下のようなこと大切に給食指導を行った。

- ・子どもの摂食嚥下、道具操作、姿勢（机・椅子）など状況を捉え合い、必要な関わりや方向性の検討をコロナ禍でもできる対応をした。
- ・食に偏りのある子の捉え、日課、カリキュラムの検討を行い、給食の内容や関わり方、クッキングの中味を具体的に考え、実施した。
- ・季節や日々の生活の中で食材を見る、触れる・味わうなど『五感』に働きかけることを意識し、子どもたちにとっての経験、食への興味を広げる取り組みを考えてきた。

何気ない日々の生活の大切さを実感し、コロナ禍でもできる、楽しく食べることを実践した。

親 おたより（月1回）、クラス研修、個別懇談、食事調査を必要に応じて行い、啓蒙した。研修や長時間保育を通し、水分、食事を考えるきっかけにした。日々の生活を通し、「共食」の大切さや、「食文化」を意識し、経験を積み重ねてきた。子どもの気持ちが見えるようなエピソードや写真を添えたおたよりづくりをする中で、子どもたちの園での様子を伝えるものとしてきた。クラスの状況に応じ、クッキングを計画的に取り組み、そのことを通して、家庭での生活作りや子どもとの関わりにつなげ、食べることへの興味関心が広がってきた姿を伝えてきた。家庭での悩み（食事づくりや関わりなど）から、簡単にできる工夫について啓蒙した。親子で登園可能な時に試食を位置づけたことで、各クラスより作り方が知りたい、気になるメニューなどがあがった。ひとつのメニューからいろいろアレンジできるような工夫やポイントを添えたレシピ集（副菜、おやつ）を発行した。

・給食委員会

月1回、各クラスの給食委員と栄養士、調理師で行い、各クラスの子どもの状況をとらえあい日々の療育につなげてきた。伝統行事や季節の行事、この地方の食文化について学び合い、給食委員として発信し、親子で経験する（家庭）につなげるきっかけとして、おたよりやその行事の食べ物等配布してきた。感想等も募り、行事を楽しむきっかけづくりとした。

各クラスの子どもたちの状況により、水分補給の内容、食事形態など、園生活の日課の整理を含め子どもたちにとってよりよい生活を考えるクラスケースを年に2回取り組んだ。療育として食べることをどう考え、実践していくかを職員集団で積み上げてきた。

年度末にクラスごとの人気メニュー、子どもたちの様子をおたよりにし、親向けのレシピ集（おやつ）の編集を行った。

⑥ 年間行事

月	日	内 容	内 容
4	5 (月)	入 園 式	そよ風入園のつどい。新入児を2回にわけて式を行う。
	6 (火)	進 級 式 (はじまりのつどい)	そよ風進級の親子のつどい。進級児を2回に分けて行う。
5	21 (金)	親 子 遠 足	東山動物園 (名障連招待行事) は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
7	6 (火) ~ 8/27 (金)	生 活 づ くり 週 間	登園時間を9時30分にし、園でのあそびの充実や、家庭での過ごし方の検討をとりくむ。
	3 (土) 4 (日)	お父さんとあそぼう会	5、6月に予定をしていたが、新型コロナ感染拡大により7月に延期した。7クラスを2日間に分け(1日目: つばめ、めだか、たんぼぼ、2日目: そら、にじ、ちょうちょ、つくしんぼ)、お父さんと一緒に親子遊びを楽しむ。毎年恒例の環境整備は実施しなかった。
	9 (金) ~ 10 (土) 16 (金) ~ 17 (土)	年 長 親 子 宿 泊	19組の年長児を2日程に分け (1日目: にじ、そら、2日目: つばめ) 親子でそよ風に宿泊する。24時間の生活をとらえるとともに、魚つかみ、花火、お母さんの交流会など楽しくとりくむ。
8	3 (火) 5 (木) 6 (金)	海 水 浴 (野間海水浴場)	3日間に分け (1日目: つばめ、そら、にじ、2日目: ちょうちょ、めだか、3日目: たんぼぼ、つくしんぼ)、親子で野間海水浴場にて海でのあそび経験を広げる。父親や兄弟も参加し、海でのあそびやすいかわりを楽しむ。
	28 (土)	わくわくまつり	新型コロナウイルス感染拡大防止のため社会館夏まつり、そよ風わくわくまつりは中止。わくわくまつりのあそびを翌週のクラス保育でとりくむ。
9	29 (水)	みんなのあそぼう会 (4 クラス)	前半期療育まよめの行事。 新入児を含む4クラスが行う。クラスの保護者に限定し、子どもたちのあそびを参観する。
10	6 (水)	みんなのあそぼう会 (3 クラス)	前半期療育まよめの行事。 年長児を含む3クラスが行う。屋外であそぶ経験を大切に、園庭や屋上を使って身体をいっぱい使ったあそびを展開する。
	16 (土) 23 (土)	家 族 う ん ど う 会	2日間に分け (1日目: つばめ、そら、ちょうちょ、つくしんぼ、2日目: にじ、めだか、たんぼぼ) 取り組む。園庭や屋上、近隣の公園を使い、密集を避けて取り組む。親の会と協力して準備をすすめ、家族そろって楽しんだ。
11	23 (土・祝)	社 会 館 バ ザ ー	規模を縮小して実施。職員の日用品のお店やあそびコーナー、YouTube 配信などとりくむ。親の会には日用品の協力をさせていただく。
12	3 (金) ~ 4 (土)	年 長 単 独 宿 泊	単独でそよ風に宿泊する。日中は、通園バスで水族館に出掛け、夜は花火、光あそびを楽しむ。
	23 (木) 24 (金)	ク リ ス マ ス 会	2日間に分け (1日目: そら、にじ、ちょうちょ、2日目: つばめ、めだか、たんぼぼ、つくしんぼ) 取り組む。職員のオペレッタを見てサンタクロースからプレゼントを受け取った。
2	11 (祝) 12 (土)	がんばったお祝い会	1年間の療育のまよめの行事。2日間に分け (1日目: ちょうちょ、めだか、たんぼぼ、つくしんぼ、2日目: つばめ、そら、にじ) 取り組んだ。コロナでの休園後だったため、保護者の参観をなくし、ZOOMでライブ配信をする。
3	18 (金)	おわかれのつどい	園児のみで行う送り出しのつどい。遊戯室に分散してつどい、年長児をお祝した。
	19 (土)	卒 園 式 (親の会お別れ会)	年長児19名の卒園を祝う。年長児親子と職員のみでの参加とし、2部に分けて行う。園庭での送り出しには4歳児親子が参加し園庭で風船飛ばしをした。親の会お別れ会は中止した。
	24 (木)	そよ風のつどい	2021年度療育終わりのつどい。感染拡大防止のため、クラスごとで保育証書授与式と親子あそびを行った。

⑦ 相談・診療との関わり

- ・入園前健診（3月）、在園児健診（4～5月、12月）を実施した。また、外部歯科による歯科検診（6月）を実施した。
- ・重心児や新入児をはじめとした丁寧な健康管理が必要な児を対象に、月1回～2ヶ月に1回の頻度で、登園前の定期診察を実施した。
- ・医療的ケアが常時必要な児の単独での療育を保障するために、クラス担任で健康状況を丁寧に捉え、看護師と情報を共有して単独移行をすすめた。
- ・年1回、通園の子どもたちの発達相談を実施し、その前後で心理士と情報交換を行った。
- ・給食指導に週3～4回訓練士が入り、道具操作や摂食指導を行った。（新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言中は中止）
- ・月1～2回、クラスからの希望により訓練士（PT、OT、ST）が通園療育に参加し、子どもの状況を捉え合うとともに、療育検討を行った。（新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言中は中止）
- ・医師・保健師・看護師・通園職員で月1回健康会議を実施した。

3 家族支援

親子療育	<p>定例親子通園（毎週水曜日：親子あそび、親子プール、園外保育、親の会、研修会）</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、緊急事態宣言中は水曜日親子登園を中止した。</p> <p>新入児新規親子療育（4～5月 2・3・4歳児）</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、クラスを2つに分けて少人数での親子療育を行う。</p> <p>親子行事（2021年度実施行事は前述）</p> <p>誕生会（月1回：コロナの状況に応じて、分散、クラスごとに行った。）</p> <p>個別療育 新入児（4月）</p>
クラス懇談会	<p>前半期クラス懇談会（5月）</p> <p>※新入児クラスは、保育説明会（5月）</p> <p>後半期クラス懇談会（10月）</p>
懇談等	<p>個人懇談（各家庭年2回 5～6月、11月に実施）</p> <p>家庭訪問（4月に新入児のみ実施、進級児はコロナ感染拡大のため中止）</p>
全体	<p>・「子どもも親も幸せをかんじられるように」2回（近藤直子氏）</p> <p>・感覚について（作業療法士）</p> <p>・コミュニケーションについて（言語聴覚士）</p> <p>・絵本のすすめ（職員）</p>
クラス研修	<p>・就園懇談会（職員、就園児親）</p> <p>・就学懇談会（担任、就学児親）</p> <p>・サポートブック作成会（担任）</p> <p>・排泄について（担任）</p> <p>・生活リズムについて（担任）</p> <p>・着脱について（担任）</p> <p>・食べることと感覚について（栄養士）</p> <p>・感覚について（担任）</p>

4 見守り一時支援

市内の各児童発達支援センターにて15時以降の療育を、希望者に対して実施している。そよ風通園部では、定員最大10名、最長17時30分まで受け入れを実施した。

月別利用実績

(2021年度)

月	開所日	利用者人数	延べ利用者数	日平均
4月	14	7	54	3.8
5月	15	9	53	3.5
6月	18	13	91	5.0
7月	12	13	69	5.7
8月	15	15	80	5.3
9月	16	12	91	5.6
10月	17	18	94	5.5
11月	18	17	117	6.5
12月	15	16	92	6.1
1月	14	19	104	7.4
2月	12	14	80	6.6
3月	13	14	93	7.1
合計	179	167	1018	5.6

注) 4～5月は進級児のみ対象、新入児は6月より対象とした。
利用した実人数は25名であった。

5 2021 年度まとめ

(1) 療育づくり

2021 年度は、名古屋市の定員の柔軟な設定に伴い、2 名の 2 歳児を含む新入児 24 名、進級児 32 名の 56 名でスタートした。(10 月に 3 才児 1 名が保育園へ転園) 感染防止を行いながらの療育となったが、子どもたちの日々の経験を狭めることのないよう、園庭で誕生会を行ったり、分散して行事を行ったり、ZOOM を活用したオンライン保育の実施など、工夫しながら療育保障を行った。

あそびづくりでは、昨年度学んだ「内容論と関係論」に視点をあて、保育づくりをしてきた。コロナ休園明けに行われたまとめの行事では、子どもたちの揺れ動く気持ちがよく見える半面、保育者の「やってほしい」気持ちが強くなり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い子どもの力を引きだす関わりが課題である。子どもたちは人との関係の中で育つことを改めて確認し、子ども像に立ち返りながら、日々の療育を丁寧に振り返り積み重ねていくことを次年度も大切にしたい。

(2) 家族支援

コロナの状況もあり、親子療育が実施できたのは 4 か月のみ。その中で分散登園を組んだため、各クラス 7, 8 回となった。保護者の子ども理解、経験の広がり、仲間づくりという点で親子療育の必要性、大切さを改めて感じ、早く通常の療育に戻ってほしいと切に願う。少ない親子療育の中でも、就労の方以外は積極的に参加し、行事も人数制限をしながらはなしたが、参加は多く期待も感じられた。今後も、丁寧に家族を捉える事、父親を巻き込んだ子育て支援を行っていくことが課題である。

今年度は外国籍の児童が 6 名在籍し、おたよりなどもルビ打ちや英訳を行いながら伝えてきた。おたよりだけでなく、きずなネットも活用し、速やかに保護者に様々な情報を伝達してきた。

通園バスは 3 台から 4 台に増やし送迎を行っている。水曜親子バスも運行し、登園保障に繋がっている。

研修は、近藤直子氏を講師に招き 2 回実施。リハ研修やクラス研修も行うことができた。園に来るだけでなく、ZOOM での参加も可としたことで、保護者も参加しやすくなった。

親の会は役員さんたちが中心となり、少人数での総会の開催、ZOOM での定例会などを取り組む。

(3) 保育者集団づくり

1, 2 年目の職員が多い中、そよ風の療育を丁寧に積み重ね、学んできている中堅職員が自分の考えを出しながら職員集団づくりをすすめてきている。日々ケガやミスも多数あり、パンツをはかせ忘れるという事故もおきた。改めて、人権について考え、職員一人一人が子どもたちの姿を丁寧にとらえながら、責任をもちとりくんでいくことを確認した。仕事が煩雑化する中で、限られた時間の中で一人一人がより主体的に学び、考えながら仕事づくりや療育に向かうことが求められている。また主任だけでなく、リーダー会一人一人が、しっかりと意識を高め、運営や内容づくり、そよ風の療育を伝え深めていくことを通して、集団としての力をつけていくことも大切である。

6 児童の状況

表4-1 障害種別状況

2021年度3月末現在

障害種別	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害		1	4	5	6	16
自閉症			2		2	4
自閉症+知的障害			10	6	9	25
知的障害+肢体不自由		1		2		3
肢体不自由						0
重症心身障害			2	2	2	6
その他保健			1			1
計		2	19	15	19	55

表4-2 障害程度別状況

障害程度	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
最重度			2	6	3	11
重度			1	1	9	11
中度		1	7	5	4	17
軽度		1	5	2	3	11
非該当			4	1		5
計		2	19	15	19	55

注) (1) 身障、愛護両方所持の場合、程度区分は重いほうを基準として分離した。
 (2) 未所持の児童に対しては発達指数により障害区分を分類した。

表4-3 手帳所持状況 愛護手帳

愛護手帳	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1度				3	3	6
2度			3	2	9	14
3度		1	7	6	4	18
4度		1	5	3	3	12
未所持			4	1		5
非該当						
計		2	19	15	19	55

表4-4 身体障害者手帳

身体障害者手帳		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
I種	1級			1	4		5
	2級		1	1	1	4	7
	3級			1		1	2
	4級						
	5級						
	6級				1		1
II種	1級				2		2
	2級						
	3級						
	4級						
	5級					1	1
計			1	3	8	6	18

表4-5 区別状況

2021年3月現在

区	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区		1	9	4	4	18
緑区		1	10	11	15	37
港区		0	0	0	0	0
計		2	19	15	19	55

表4-6 通園日数

通園日数	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
1日				
2日				
3日				
4日				
5日	2	19	15	19

表4-7 月別児童数

入退園	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在園	56	56	56	56	56	56	56	55	55	55	55	55
月末在園	56	56	56	56	56	56	55	55	55	55	55	55

表4-8 在園期間

在園期間	児童数	平均在園期間
1年未満	1	1年11ヶ月
1年以上2年未満	23	
2年以上3年未満	15	
3年以上4年未満	14	
4年以上5年未満	3	
5年以上6年未満	0	
計	56	

表4-9 卒退園児の進路先と平均在園期間

卒園	特別支援学校	肢体的	5	13	在園期間	卒園	退園																																			
		知的	8					退園	支援級	6	6	1年未満		1	保育園(公)	6	7	1年以上2年未満	1	5	保育園(民)	1	2年以上3年未満	3	1	幼稚園(公)	1	1	3年以上4年未満	12	1	幼稚園(民)	0	4年以上5年未満	3		転居	0	0	5年以上6年未満	0	
退園	支援級	6	6	1年未満		1																																				
	保育園(公)	6	7	1年以上2年未満	1	5																																				
	保育園(民)	1		2年以上3年未満	3	1																																				
	幼稚園(公)	1	1	3年以上4年未満	12	1																																				
	幼稚園(民)	0		4年以上5年未満	3																																					
	転居	0	0	5年以上6年未満	0																																					
	計	19	8	平均在園期間	2年9ヶ月	1年4ヶ月																																				

第5 地域ケア事業

1 地域連絡調整

表5-1 地域連絡調整

派遣先	内容	派遣職員	派遣頻度
南保健センター	のびのび教室	保育士・ケースワーカー	月1回(9月・2月中止)
緑保健センター	みどりっこ教室	中止	
緑保健センター徳重支所	ちゅーりっぷ教室		

表5-2 連絡調整会議

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南区 障害児療育連絡会	2021.12.10 研修 「育ちが気になる子と保護者 への支援」 講師 近藤直子 (あいち障害者センター)	保健センター 公立保育園 民間保育園 民間幼稚園 認定こども園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長 通園部副園長
緑区 障害児療育連絡会	2021.11.5 2021.11.26 2回に分け実施 全体報告 緑保健センター そよ風 テーマ別交流会	保健センター 公立保育園 民間保育園 公立幼稚園 民間幼稚園 認定こども園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長 相談診療副部長 ケースワーカー 保育士 心理
南区子育てネット	2021.4.8 子育てまつりについて 近況報告 2022.11.17 近況報告 その他書面開催	民生子ども課 子育て支援センター 図書館・児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	保育士
緑区子育てネット	1～2か月に1回幹事会 年1回赤ちゃんまつりの開催 ※書面開催	民生子ども課 子育て支援センター 図書館・児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長

注) 各療育連絡会は例年、2回行ってきたが、感染拡大の時期を避け各1回実施した。

表5-3 保健センター連絡会

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南保健センター 連絡会	2021.5.28 新事業説明 地域の母子保健の現状	南保健センター 南部地域療育センター	ケースワーカー
緑保健センター 連絡会	2021.6.11 新事業説明 そよ風の事業 地域の母子保健の現状	緑保健センター 南部地域療育センター	ケースワーカー 発達相談員 グループ担当

注) 各療育連絡会は例年、2回行ってきたが、感染拡大の時期を避け各1回実施した。

表 5 - 4 事業所説明会

会 議 等	開催日・内 容	構成メンバー	出席職員
事業所説明会	2021.6.21 南・港保健センター	各区保健師	副所長 ケースワーカー 相談支援専門員 通園職員
	2021.6.25 緑保健センター		
	2021.7.20 相談支援事業所	相談支援専門員	

表 5 - 5 親の集い

会 議 等	開催日・内 容	構成メンバー	出席職員
南保健センター 発達に支援が必要なお子さんを持つ親の集い	2021.7.12・11.15 講話・質疑応答	南保健センター 南部地域療育センターそよ風 手をつなぐ育成会・講師	ケースワーカー
緑区 子どもの発達が 気になる親の集 い	2021.7.9・10.8・12.10 講話・座談会 オンライン	緑区障害者基幹支援センター 南部地域療育センターそよ風 緑保健センター・講師	副部長 ケースワーカー

表 5 - 6 いこいの家事業

会 議 等	開催日・内 容	構成メンバー	出席職員
緑区 いこいの家事業	2022.3.28 就園・就学に向けて 講話	緑区いこいの家(葡萄の木) 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー 発達相談員
南区 いこいの家事業	2021.11.22 親子遊びと個別相談	南区いこいの家(mimi) 南部地域療育センターそよ風	グループ担当 ケースワーカー

ケース会議

病院・相談支援事業所・保健センター・学校が主催するケース会議に出席した。(8件)
そよ風主催は2件。出席者はケースワーカー・相談支援専門員・発達相談員・看護師・理学療法士。

エリア支援保育所との懇談を1回実施した。(2021.10.13)

2 巡回療育指導

保育園又は幼稚園、学校、地域の関係機関に通っている児童について各種の相談に応ずるとともに、保育・教育あるいは家庭支援に関する必要な助言及び指導を行った。なお、園からの申し込みにより当センターに受診歴の無い児童についても、助言及び指導を行った。

〈対象児〉

- ・ 保育園・幼稚園又は学校から相談を受けた児童（未受診児を含む）
- ・ 通園施設から保育園・幼稚園へ就園した児童及び小学校に就学した児童については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

表5-7 月別巡回療育指導状況 (2021年度、単位：件、人)

	区 分	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	計
相談診療部	件 数	1	0	3	12	0	11	10	5	42
	人数(既受診児)	1	0	1	15	0	11	8	5	41
	人数(未受診児)	0	0	6	15	0	17	11	8	57
通園部	件 数	6	3	0	0	0	0	1	0	10
	人数(既受診児)	8	3	0	0	0	0	1	0	12

- 注) (1) 9月は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中により実施中止とした。
中止となった件数は、9件(幼稚園1ヶ園、保育園7ヶ園、子ども園1ヶ園)。
(2) 4月と11月には1件ずつ、保護者からの申し入れによる巡回療育指導を実施した。
(保育園1ヶ園、子ども園1ヶ園)。
(3) 受診児のうち4名は、通園施設卒園児へのリハビリ職員によるアフターフォローとして実施した。
(特別支援学校1校)。

表5-8 巡回療育指導施設数 (2021年度、単位：カ所)

区 分	南 区	緑 区	港 区	計
保 育 園	8	22		30
幼 稚 園	3	1		4
こ だ も 園	2	5		7
学 校			1	1
計	13	28	1	42

表5-9 巡回療育担当スタッフ (2021年度、単位：件)

ケースカー・保健	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループスタッフ	通園スタッフ	看護師	計
10	48	1	10	12	4	17	0	102

表5-10 児童の状況

(2021年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校	中学校	高校生	計
知的障害										
自閉症			2	9	4	6				21
自閉症+知的障害			2	4	1					7
肢体不自由										
肢体不自由+知的障害							1			1
言語発達障害等				2	1					3
重症心身障害							3			3
未決定			1	2	1					4
その他					1	1				2
計			5	17	8	7	4			41

3 訪問療育指導

- ・重症児に対し、コロナの制限がない時期には、事前に職員や児の体調確認を丁寧に行った上で、継続的に訪問療育を行った。
- ・コロナ禍で面会制限があり、入院児への訪問が行えなかった。

〈対象児〉

- ・重症心身障害の児童
- ・通所が困難な児童
- ・長期入院児童
- ・児童相談所との連携が必要な児童
- ・早期受診の児童
- ・療育上家庭での指導が必要な児童

表5-11 訪問療育指導月別状況

(2021年度、単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	3	2	2	2	1	2	1	2	1	0	1	3	
延べ人数	3	2	2	2	1	2	1	2	1	0	1	3	20

表5-12 訪問療育担当スタッフ

(2021年度、単位：件)

ケースワーカー	リハビリ	療育スタッフ(保育士)	看護師	相談支援専門員	発達相談員	計
8	11	1	14	6	1	41

表5-13 訪問療育児童の状況

(2021年度、単位：人)

診療区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
ダウン症等染色体異常	1		1					2
脳性麻痺(重心)		1	1	1	1			4
精神発達遅滞								0
自閉症				2		1		3
知的障害								0
運動発達遅滞								0
計	1	1	2	3	1	1	0	9

注) (1) その他年齢：小学生まで
 (2) 年齢は学年齢である

4 通園部アフターケア

あそび虫クラブ

月に1回、土曜日の午前中に、そよ風を卒園して、特別支援学校または、特別支援学級に在籍をしている学齢期の親子を対象に、6月～3月で子どもたちの興味や余暇を充実させることをねらいに、学年齢に分かれて3つのプログラムを実施した。夏のプログラムも、新型コロナウイルス感染に配慮しながら、2泊3日小那比キャンプ、重心プログラム、兄弟プログラムなど行った。

小学校低学年は親子で様々な経験を広げることを目的にリトルあそび虫を実施した。

表5-14 リトルあそび虫(小学校低学年)

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
5/15	芝滑り	中止	11/27	乗馬のとりくみ	8組
8/7	親子デイキャンプ	中止	1/22	おもちつき	中止
9/18	パン作り	中止	3/25	いちご狩り	3組

表5-15 小学4年生から高校3年生のサークル別

	太鼓サークル	水泳(クッキング)サークル	陶芸サークル	備考
6月	2	8	1	・水泳サークルは、温水プール故障のため、12月よりしあわせ村プールを利用。また代替プログラムとしてクッキングを行なった。
7月	1	6	1	
8月	中止	中止	中止	
9月	中止	中止	中止	
10月	6	8	1	
11月	5	5	3	
12月	4	2	2	
1月	中止	中止	中止	
2月	中止	中止	中止	
3月	2	3	1	

長期休暇プログラム

あそび虫クラブは岐阜県郡上市小那比2泊3日キャンプを実施した（小学生グループは中止）。リトルあそび虫は、親子デイキャンプを中止した。重心プログラムは、そよ風で1日プログラムを実施した。

5 アフターケア

例年行っている学校・保育園・幼稚園訪問、コロナ感染予防のため中止し、アフターケアは以下の内容を行う。

表5-16

とりくみ	実施日	対 象	数	内 容
電話での状況確認	4月	転園・就学児	22名 1回	そよ風を卒園、転園したお子さんのコロナ禍での状況を電話にて確認。
18歳のつどい	中止	2021年度 18歳を迎える子	延期	これまでの療育歴や子育てを振り返り、18歳までの区切りとする予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、来年度へ延期した。
19歳のつどい	6/26	2021年度 19歳を迎える子	9組	前年度延期にした18歳のつどいを19歳として実施。在園中のビデオや思い出を語り、子育てを振り返る機会にした。

6 そよ風広場

土曜日の午前中に、そよ風通園、デイサービスACTとデイサービスみどりそよ風の児童発達支援事業から転園した就学前の親子を対象に、様々なプログラムを企画し、親子で楽しく休日をお過ごしことや、経験を広げることを大切に取り組んだ。また、保育園や幼稚園での悩みをお母さん同士が話せる場や、親御さん同士のつながりを大切に交流をした。

実施日	プログラム	参加親子	実施日	プログラム	参加親子
5/15	おしゃべり広場(交流会)	中止	11/27	パン作り	11組
6/26	芝滑り	6組	12/18	餅つき	14組
7/24	リズムあそび	15組	1/22	こまづくり	中止
9/18	堀内公園	中止	2/26	パン作り	中止
10/9	芋ほり	3組	3/12	いちご狩り	中止

7 兄弟プログラム

2021 年度通園部に通っている子ども及び、以前に通園部に通っていた子どもの小、中学生の兄弟を対象とし、2 ヶ月に 1 回集ってあそびなどのプログラムを行った。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
6/26	公園あそび、キャンプ話し合い	14 名	10/ 9	パラ競技大会	13 名
7/24	公園あそび、キャンプ話し合い	15 名	12/18	クリスマス会	16 名
8/ 9 ~ 10	そよ風で泊まろう (感染拡大のためキャンプを中止しそよ風で宿泊した)	13 名			

8 施設・プール開放

- ・同法人内のデイサービス A C T、デイサービスみどりそよ風、発達センターあつた、活動センターねーぶる、ちどり児童会にも開放し、年 63 回のべ 499 名が利用した。
- ・そよ風に関わる小、中学生の親子を対象に木曜日にプール開放をし、のべ 12 名が利用した。
- ・今年度は、コロナ禍でも外部の利用が多くなってきた。

9 地域啓発・ボランティア育成

- ・例年行っている、夏まつり、千鳥学区なごやか給食会（老人給食）は新型コロナウイルス感染予防のため中止になる。社会館バザーは規模を縮小して行った。法人 60 周年を記念行事として、MACHI フェスを開催し、利用者や地域の方が参加された。ボランティア育成については、実習生に呼びかけをして 3 名受け入れをした。

第6 児童デイサービス

1 デイサービス ACT (児童発達支援事業所)

(1) 児童発達支援事業

① あいあい組 (1, 2歳児クラス) 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 幼 児	契約数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	-
	開所日数	5	8	8	6	5	8	8	9	7	6	7	83
	利用者数	23	36	34	25	16	30	37	28	28	21	20	321
	平均利用	4.6	4.5	4.3	4.2	3.2	3.8	4.6	3.1	4.0	3.5	2.9	3.9

- ・週2回、(月、木)で実施。
- ・通園待機児4名と週2日療育を希望する1名の親子を対象とした。(2歳児4名、1歳児1名)
- ・小集団の中で安心してあそび、親子であそぶ楽しさを感じるとともに、保護者の子ども理解が深まった。

② 児童の状況

表6-1 障害種別状況 (単位:人)

障害種別	人数
知的障害	5
知的障害+自閉症	0
自閉症+知的障害	0
知的障害+肢体不自由	0
肢体不自由+知的障害	0
重症心身障害児	0
肢体不自由児	0
自閉症	0
計	5

表6-2 手帳所持状況 (単位:人)

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	0	I種	1級	0
2度	0		2級	0
3度	0		3級	0
4度	2	II種	1級	0
未所持	3		2級	0
			3級	0
計	5			

表6-3 進路状況 (単位:人)

進路先	人数
児童発達支援センター	3
保育園(公立)	0
保育園(民間)	1
幼稚園	0
県外へ転居	0
在宅	1
合計	5

(2) 放課後等デイサービス

対 象 名古屋市在住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生～高校3年生。(全員南区、緑区在住であった)

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日… 14:30～17:30
土曜日(月1回)・学校長期休業期間 … 9:30～15:30

表6-4 月別利用状況

(2021年)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	27	27	26	26	24	27	27	28	28	28	27	28	323
開所日数	18	18	23	18	17	21	21	21	18	17	19	18	229
利用者数	117	103	148	112	90	135	141	139	119	100	83	111	1398
平均利用	6.5	5.7	6.4	6.2	5.3	6.4	6.7	6.6	6.6	5.9	4.4	6.2	6.1

表6-5 契約状況

(単位:人)

曜 日	利用者登録数	利 用 者 学 年											
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
月曜(中高生)	5	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	1
火曜(小学生)	9	1	3	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0
水曜(小学生)	10	0	2	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0
木曜(中高生)	5	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1
金曜(小学生)	10	1	3	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
土曜(月1回)	7	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0	0	1

長期休暇プログラム等の実施

- ・場所や活動を分けるなど感染対策を行いながら、2年ぶりにキャンプを実施した。
- ・感染防止を行いながら、クッキングや外出プログラム、プール等を実施した。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。

2 デイサービスみどりそよ風

(1) 児童発達支援事業

① くじら組（2歳児クラス）利用状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 幼 児	契約数	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	—
	開所日数	5	7	9	6	5	8	9	8	7	7	8	7	86
	利用者数	33	39	53	27	23	43	53	35	43	23	36	40	448
	平均利用	6.6	5.6	5.9	4.5	4.6	5.4	5.9	4.4	6.1	3.3	4.5	5.7	5.2

- ・週2回、（火・金）で実施。
- ・2021年度は8組の親子が利用。5月末に1組の契約終了したため、6月からは7組の親子で実施。
- ・他の事業利用をしている子もいたが、親子療育に期待する方が多く、欠席は少なかった。
- ・人とあそぶことの楽しさが広がったと共に、保護者同士の関係づくりも進めてきた。

② 児童の状況

表6-6 障害種別状況（単位：人）

障害種別	人数
知的障害	0
知的障害＋自閉症	0
自閉症＋知的障害	5
知的障害＋肢体不自由	0
肢体不自由＋知的障害	0
重症心身障害児	0
肢体不自由児	0
自閉症	2
計	7

表6-7 手帳所持状況（単位：人）

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	0	I種	1級	0
2度	0		2級	0
3度	1		3級	0
4度	2	II種	1級	0
未所持	4		2級	0
			3級	0
計	7			

表6-8 進路状況（単位：人）

進路先	人数
児童発達支援センター	5
保育園（公立）	1
保育園（民間）	0
幼稚園	1
県外へ転居	0
在宅	0
合計	7

(2) 放課後等デイサービス

対 象 名古屋市内在住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生～
中学3年生。(全員南区、緑区在住であった)

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 … 14:30～17:30
土曜日(月1回)・学校長期休業期間 … 9:30～15:30

表6-9 月別の利用状況

(2021年)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	26	27	27	27	29	29	29	30	30	31	31	31	347
開所日数	18	18	23	22	17	21	22	19	20	18	19	20	237
利用者数	65	92	128	140	100	151	146	120	144	119	130	140	1475
平均利用	3.6	5.1	5.7	6.4	5.9	7.2	6.6	6.3	7.2	6.6	6.8	7	6.2

表6-10 契約状況

(単位:人)

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年								
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
月 曜	10	3	0	2	2	2	1	0	0	0
火 曜	9	5	1	2	1	0	0	0	0	0
水 曜	9	4	2	2	1	0	0	0	0	0
木 曜	9	1	1	3	1	2	1	0	0	0
金 曜	6	1	0	3	0	1	0	0	1	0
土曜(月1回)	11	1	1	2	1	0	4	1	1	0

長期休暇プログラム等の実施

- ・コロナの感染状況も見ながら、小那比中学校ではなく、「山の家」で2泊3日のキャンプを行い、7名が参加した。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。

第7 障害児相談支援事業所

障害児相談支援事業所そよ風

- ・相談支援専門員3名（専従1名、兼務2名）で基本相談、計画作成、モニタリング等を実施してきた。
- ・管理している対象者の年齢層は0歳(2021年度は当年生まれ1名あり)～12歳(小学校6年生)と幅が広がっている。
- ・2021年度は低年齢、重心、医療的ケア児が多くつながってきた。また、セルフプランにて計画作成をしていたが、計画相談に切り替わったケースも例年より多かった。

表7-1 管理数

(2021年度、単位：人)

居住区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児	8歳児	9歳児	10歳児	11歳児	合計
南区	1	2	9	18	7	8	4	3	6	6	3	1	68
緑区	2	14	35	21	26	32	7	17	6	16	8	2	186
港区			1	1	1	1	1			2			7
計	3	16	45	40	34	41	12	20	12	24	11	3	261

注) 0歳児のうち、1名は当年生まれ

表7-2 支援実績

(2021年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	18	3	9	14	14	1	9	14	41	22	8	27	180
本計画作成	79	27	14	19	12	10	16	15	4	5	5	14	220
モニタリング	17	16	28	28	23	48	43	30	25	18	14	20	310
家庭訪問	42	22	36	62	41	8	48	55	75	39	21	64	513

表7-3 基本相談

(2021年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家庭訪問	6	5	7	19	6	4	10	9	9	1	3	13	92
来所	5	4	4	11	4	2	6	9	3	2	5	8	63
その他	32	45	51	78	57	75	64	82	86	79	70	105	824

注) その他は電話相談である。昨年度より大幅に増加しているが、1件についての対応数が増えていること、記録方法を整備し、確実に数に挙げる事が可能になったことによる。

表7-4 基本相談の内容

(2021年度、単位：件)

サービス利用等	子どもの発達・障害	子育て	幼・保・学校など	家族	子どもの余暇等	その他
691	38	315	239	497	3	70

注) 各項目の件数は重複計上である。

表7-5 会議等

(2021年度)

	開催日	構成メンバー	参加職員
障害児相談支援運営連絡会	2021. 7. 1 2021.12.13	名古屋市 中央療育センター 各地域療育センター 各児童発達支援センター あけぼの学園	相談支援専門員
南区自立支援連絡協議会 相談支援連絡会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 南区役所福祉課 南保健センター	相談支援専門員
緑区自立支援連絡協議会 相談部会定例会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 緑区役所福祉課 緑保健センター	相談支援専門員
ケース会議・サービス調整会議	30回 必要に応じて開催・参加	関係機関	相談支援専門員

資料 センター利用者数の10年間の推移（2012年度～2021年度）

新規相談件数（区別）

（単位：件）

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
南 区	97	118	118	103	105	127	126	144	111	132
緑 区	258	278	342	273	290	327	291	284	309	330
熱田区	43	44	10	0	0	0	0	0	0	0
港 区	5	9	5	9	5	7	7	4	2	8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	403	450	475	385	400	461	424	432	422	470

新規相談件数（年齢別）

（単位：件）

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
0 歳	23	12	13	16	23	13	16	12	12	7
1 歳	41	38	50	33	28	47	47	42	47	65
2 歳	120	132	148	113	87	154	127	143	151	146
3 歳	112	149	158	113	135	132	115	121	97	134
4 歳	50	53	43	49	58	56	59	53	55	62
5 歳	33	51	51	53	51	42	49	46	48	43
6 歳	23	13	12	8	18	13	11	15	12	13
小学校低学年	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0
小学校高学年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	403	450	475	385	400	461	424	432	422	470
受付初診						221	213	220	235	258
合 診						38	43	37	36	36
一般初診						202	168	175	151	176

継続相談延べ件数

（単位：件）

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件 数	986	1063	1175	1123	1137	1063	1000	1010	1033	1026
実人数	757	798	860	824	816	806	774	773	802	840

療育グループ延べ参加人数

(単位:人)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
就園前グループ	3970	4132	3760	3860	3172	2960	3411	2797	1824	2122
並行グループ	450	585	679	564	581	561	397	412	381	451
計	4420	4717	4439	4424	3753	3521	3808	3209	2205	2573

小児科診察件数

(単位:件)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
初診(実)	403	450	475	385	400	461	424	432	422	470
再診(のべ)	201	255	262	321	362	453	563	563	749	778
計	604	705	737	706	762	914	987	995	1171	1248

整形外科科診察件数

(単位:件)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
初診	57	54	47	47	55	51	44	45	44	40
再診	1094	988	922	900	587	942	538	564	525	493
計	1151	1042	969	947	642	993	582	609	569	533

精神科診察件数

(単位:件)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
初診	11	9	12	4	4	4	4	2	2	0
再診	50	42	71	75	55	69	77	57	64	62
計	61	51	83	79	59	73	81	59	66	62

耳鼻科診察件数

(単位:件)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
初診	215	156	217	184	149	90	190	145	110	121
再診	587	478	488	442	274	178	223	262	125	128
計	802	634	705	626	423	268	413	407	235	249

理学療法訓練延べ件数

(単位:件)

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件 数	2,915	2,891	2,531	2,436	2,411	2,239	1,953	1,935	1,983	1,803

作業療法訓練延べ件数

(単位:件)

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件 数	1,607	1,832	1,802	1,605	1,849	1,689	1,691	1,425	1,400	1,374

言語聴覚療法訓練延べ件数

(単位:件)

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件 数	1,780	1,678	1,301	1,813	1,532	1,866	2,034	1,578	1,538	1,506

巡回療育実施件数(職員派遣数)

(単位:人)

年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件 数	137	146	124	140	115	125	109	111	50	102

訪問件数

(単位:件)

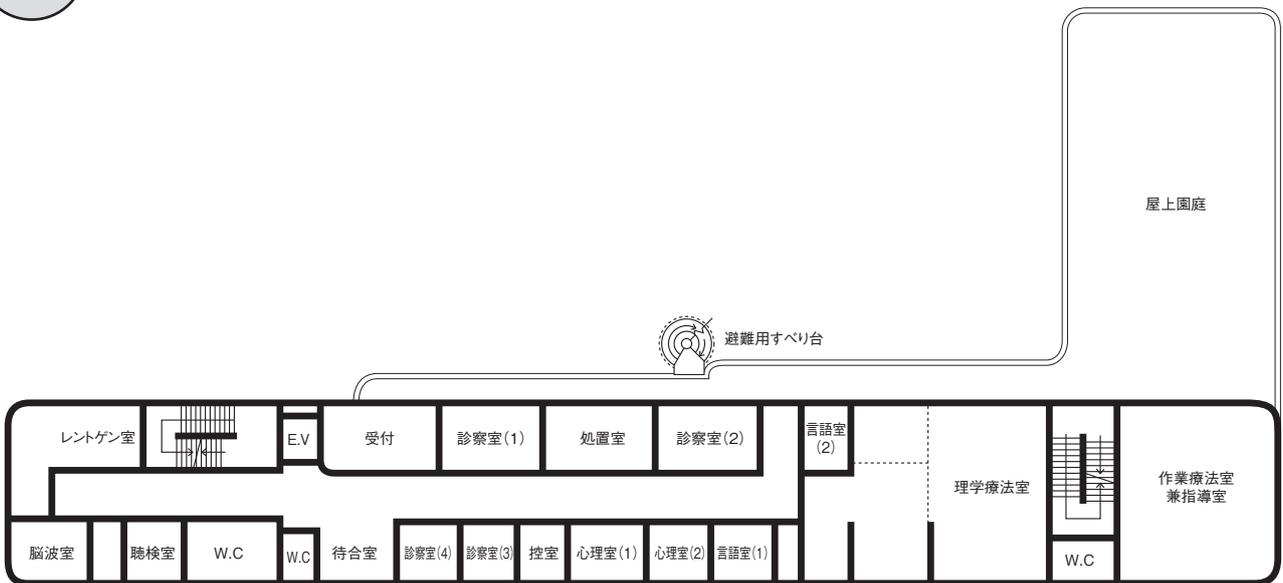
年 度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
回 数	17	19	26	14	10	21	22	9	24	20

平面図

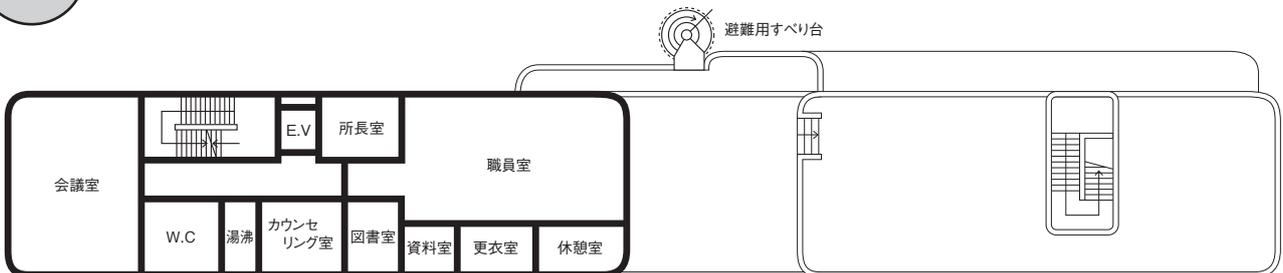
1階

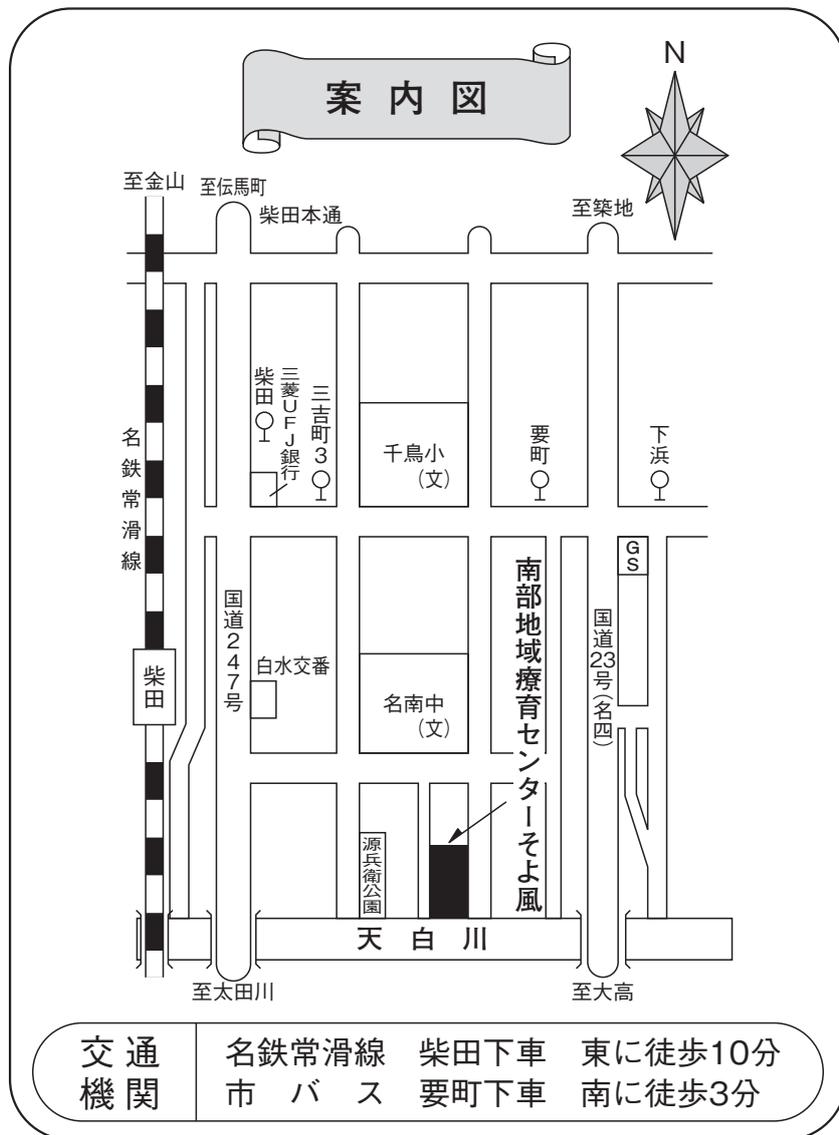


2階



3階





2022年7月発行

発行者 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
南部地域療育センターそよ風
 〒457-0805 名古屋市南区三吉町 6-17
 TEL 052(612)3357・FAX 052(612)3411

南部地域療育センターそよ風は、
すべての子どもの成長発達を願い
早期療育、地域療育をすすめます。